

富山県の中学校校歌をつくった人たち ～作詞者及び作曲者の観点から～

Lyrics Writers and Composers of Junior High School Songs in Toyama Prefecture

堀 江 英 一

HORIE Hidekazu

『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』（2014年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第5巻）に続き、小澤達三『富山県校歌全集』に基づいた富山県内の中学校校歌の作詞・作曲者の一覧を作成し、地域的な特徴と時代別の特徴を明らかにした。一覧は、作詞・作曲者の出身地や経歴とともに、統合された学校、休校になった学校が一目でわかるようにした。作成の過程で、前掲書に未掲載の学校、制定年等の訂正、新たに判明した作詞・作曲者名も含めることができた。

キーワード 富山県 中学校 校歌 作詞者 作曲者

I 問題の所在

小澤達三『富山県校歌全集』（1979年、パラマウント社）は、現在の視点で見ても貴重な労作である。小澤達三は、明治40（1907）年に下新川郡泊町・現朝日町に生まれ、県内の小学校長を歴任した人物である。昭和38（1963）年に魚津市立大町小学校長を最後に退職し、魚津市教育委員、小・中学校長会事務局長を務めた。昭和54（1979）年に、県内すべての学校の校歌を著者手書きの楽譜つきで収めた『富山県校歌全集』を編纂・自費出版する。今日では、楽譜出版に伴う音楽著作権の問題があり、このような形での出版は不可能に近い。また、絶版になってから久しく、現在では個人の入手は困難である。

平成26（2014）年3月に発表した『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者・作曲者の観点から～』（富山国際大学子ども育成学部研究紀要第5巻所収）の目的は、前掲書を基に、誤りを正したり新たに加筆したりして、県内の小学校校歌に関する現在の状況をまとめるとともに、作詞者と作曲者について地域別及び時代別に特徴を明らかにすることだった。

同様に、中学校においても、現在の中学校がどのように統廃合されて現在のよう形になったのか、その間にどのくらいの校歌が作られ、そして歌われなくなっていったのかを明らかにする必要がある。また、それらの校歌を作詞作曲した人たちはどのような人たちだったのか、小学校校歌の場合と同様に、地域によってあるいは年代によって特徴があるのだろうか。その一つ一

つを検討していくことによって、県内中学校校歌の特徴を明らかにすることができるのではないかと考えた。

II 研究の方法

①小澤達三『富山県校歌全集』及び富山県ひとつづくり財団・富山県教育記念館編『校名・校章・校歌と教育への期待』（2010、富山県ひとつづくり財団、未出版）に基づき、校歌の作詞者及び作曲者、制定年を明記した富山県下の中学校一覧を作成する。一覧は、各中学校の統廃合状況がわかるようにする。

②作詞者及び作曲者について出身地や経歴を含めて一覧にし、地域ごと、年代ごとにどのような人たちが作詞作曲を行ったのかを明らかにする。

III 富山県の中学校校歌をつくった人たち

1 作詞者

(1) 地域別に見た場合

富山県の中学校校歌を作詞した人物は、地域によって傾向が異なる。全県的には、その地域または周辺部出身者による作詞が大部分を占めているが、地元及び周辺市町村出身の教育関係者（教育委員長、校長経験者、教諭）が多い地域、特定の人物が多い地域、さまざまな人物が作詞していて傾向が認められない地域に大別できる。

①教育関係者による作詞が多い地域

地元及び周辺市町村出身の教育関係者が多い地域は次のとおりである。

下新川郡朝日町では、朝日中と泊中《朝日中に統合、校歌は別曲》の廣川親義（入善町野中出身、歌人・朝日町教育委員長、朝日町・五箇庄小、入善町・上青中《入善西中に統合》、高岡市・南星中の校歌も作詞）、境中《泊中に統合、現朝日中》の酒井善一（入善町野中出身、歌人、高等学校長歴任、入善町・野中小も作詞）と、小川中《朝日中に統合》を除くすべての中学校が該当する。

下新川郡入善町では、入善中の松原耕一（入善町荒屋出身、在職時に作詞）、舟見中《入善中に統合》の秋山嘉久（新潟県青海町出身、初代校長）、入善西中の田原長五郎（入善町出身、県教委指導課長、中学校長歴任、黒部市・東布施小、旧八尾町・檜尾小も作詞）、黒東中《入善西中に統合》の柚木武夫（滑川市出身、高等学校長歴任、富山女子短大教授、黒部市・白鷹中《鷹施中に統合》も作詞）、上青中《入善西中に統合》の廣川親義（入善町野中出身、歌人、朝日町教育委員長、朝日町・五箇庄小《さみさと小に統合》、入善町・上青中《入善西中に統合》、高岡市・西広谷小《休校》、高岡市・南星中も作詞）、飯野中《入善西中に統合》の広野清秀（入善町出身、入善町教育長、校長在職時に作詞）と、新旧すべての中学校が該当する。

中新川郡上市町では、上市中の高島順吾（魚津市出身、高等学校教諭歴任、北日本新聞詩壇選者）、統合前の旧・上市中の野沢潤（富山市水橋出身、上市中及び魚津東部中学校長）、不動中《上市中に統合》の山本淳歌（東加積村出身、本名宗間、県教育委員長、東加積村村長、滑川・東加積小、同山加積小《南部小に統合》、上市町・白萩南部小《休校》、同柿沢小《陽南小に統合》、同大岩小《陽南小に統合》、白萩西部小、音杉小《上市中央小に統合》、富山市・旧・熊野小、同

現・熊野小、旧福光町・吉江中も作詞)と、新旧4校のうち3校が該当する。

旧新湊市・現射水市では、新湊東部中《新湊中に統合》の卯尾田みどり(旧新湊市出身、新湊西部中学校長、保育専門学院長)、新湊中部中《奈古中に統合》の伝田税(新湊中部中3代目校長)、新湊南部中の木倉豊信(砺波市出身、小中学校長歴任、越中史壇会設立に尽力)が該当する。

高岡市では、南星中の廣川親義(入善町野中出身、歌人、朝日町教育委員長、朝日町・朝日中、同泊中、朝日町・五箇庄小、入善町・上青中《入善西中に統合》、高岡市・西広谷小《休校》も作詞)、志貴野中の宮崎健三(高岡市出身、和光大教授、在職時に作詞)、芳野中の島村英男(高岡市出身、東京での教員生活を経て同校勤務)、国吉中の中山安美(旧福岡町・現高岡市出身、同校在職時作詞)が該当する。

氷見市では、旧北部中の高峰正岡(氷見市出身、光伝寺住職、氷見高等学校長、氷見市・加納小《比美乃江小に統合》、同窪小、同明和小、同海峰小も作詞、氷見市胡桃出身の童謡詩人で白秋門下の多胡羊歯補作)、余川谷中《北部中に統合》の釜田弘文(氷見市余川出身、中学校長歴任、氷見市・一芻小も作詞)、西部中の清水信行(氷見市出身、小学校長歴任)、灘浦中の畑中正也(氷見市宇波町出身、小中学校長歴任、校長在職時作詞)が該当する。なお、十三中は当時の職員たちによる作詞、西條中の三箇恭子は当時の生徒である。

小矢部市では、石動中の水牧良三(小矢部市出身、中学校長歴任)、岩尾滝中《石動中に統合》の福島外喜雄(小矢部市中央町出身、教育事務所長、小矢部市教育長)、若林中《大谷中に統合》の津山玄道(西砺波郡若林村出身、願称寺住職、旧制中学校長、県教育委員長)が該当する。

なお、その他の教育関係者による作詞は次のとおりである。

黒部市・白鷹中《鷹施中に統合》の柚木武夫(滑川市出身、高等学校長歴任、富山女子短大教授、黒部市・旧黒東中、富山第一高の校歌も作詞)、同桜井東部中《桜井中に統合》の吉沢弘(中学校長を歴任した歌人・吉沢庄作の子、黒部市・田靱小《東布施小→たかせ小に統合》、同三日市小も作詞)、魚津市・加積中《東部中に統合》の前田由太郎(初代校長として在職時に作詞)、滑川市・滑川中の浦田三郎(魚津市出身、俳人、中学校長歴任、県中教研会長、魚津市・上中島小も作詞)、中新川郡舟橋村・舟橋小中の山林清作(立山町出身、舟橋小校長として在職時に作詞、現職で没)、富山市・堀川中の南日實(富山市出身、初代校長)、同旧・南部中の湯口池鶴子(富山市出身、当時の生徒、一般公募当選作品)、同奥田中の塚田長夫(当時の教頭)、同水橋中の池館速雲(富山市三郷出身、寺院住職、初代校長、水橋町教育長)、旧上新川郡大沢野町・現富山市・大久保中《興南中に統合》の長永文明(当時の教諭、細入村大沢野町教育委員長)、旧婦負郡八尾町・現富山市・大長谷中《八尾中に統合》の林義操(不詳、大長谷小中は渡り廊下で連絡され、大長谷小校歌を学園歌として歌っていた)、旧婦負郡八尾町・現富山市・杉原中の木村彦蔵(八尾町出身、中学校長歴任・2代目校長、旧山田村・山田尋常小校歌を2度作詞)、旧射水郡大門町・現射水市・旧大門中の岡本甚三(旧大門町出身、大門町教育長)、旧西砺波郡福岡町・現高岡市・福岡中の山田信一(小矢部市石動町出身、校長経験者、教諭在職時に作詞)、同利賀村・現南砺市・利賀中の河合正則(旧福野町出身、旧制砺波中学、砺波高女教諭、小矢部市・旧津沢小も作詞)、同福光町・現南砺市・福光中の吉波彦作(旧福光町出身、旧制砺波中学校長、砺波市・水島小も作詞)、同福光町・現南砺市の福光中白中分校の鶴野正輔(旧福光町出身、福光南部小教諭、吉江中教諭歴任)、同福光町・現南砺市の吉江中の山本宗間(中新

川郡東加積村出身、県教育委員長、東加積村村長、滑川・東加積小、同山加積小《南部小に統合》、上市町・白萩南部小《休校》、同柿沢小《陽南小に統合》、同大岩小《陽南小に統合》、音杉小《上市中央小に統合》、富山市・旧・熊野小、同現・熊野小の校歌も作詞）が該当する。

②特定の人物による作詞が多い地域

旧富山市は、大島文雄（富山市覚中町出身、富山大名譽教授、富山市教育委員長）による作詞が大変多い。また、市町村合併によって新たに富山市に組み入れられた旧上新川郡大沢野町、旧婦負郡婦中町、同山田村、同八尾町も大島文雄による作詞が見られる。

旧富山市では、西部中、北部中、新庄中、岩瀬中、大泉中、和合中、月岡中、呉羽中、興南中、藤ノ木中が該当する。旧上新川郡大沢野町・現富山市では大沢野中、旧婦負郡婦中町・現富山市では速星中、城山中、音川中《城山中に統合》、同山田村・現富山市では山田中、同八尾町・現富山市では八尾中、野積中《八尾中に統合》が大島文雄による作詞である。

この傾向は小学校においても見られ、旧富山市では 12 校、新たに富山市となった地域では、旧上新川郡大沢野町・大沢野小、同大山町・上滝小、同文殊寺小《上滝小に統合》、同大庄小、旧婦負郡婦中町・神保小、旧婦負郡八尾町・下笹原小《八尾小に統合》、同野積小《八尾小に統合》、同保内小《八尾小に統合》が大島文雄の作詞である。

旧高岡市は 3 校（高陵中、中田中、牧野中）で、小学校の 10 校に比較すると少ないように思えるが、割合はどちらも約 25%である。

(2) 時代別に見た場合

学習指導要領一般編（試案）が公布され、新制中学校が発足した昭和 22（1947）年から昭和 25（1950）年頃までは、教育関係者（教育長、校長、教諭など）による作詞がとても多い。

調査できた中で最も古い校歌は、中新川郡舟橋村・舟橋小中学校のもので、昭和 12（1937）年の制定、作詞は山林清作（立山町出身、舟橋小校長、在職時作詞・現職で没）である。

昭和 22（1947）は、6 校中 5 校（83.3%）が該当する。魚津市・加積中《西部中に統合》の前田由太郎（加積中初代校長在職時に作詞）、中新川郡立山町・上東中《雄山中に統合》の松久文男（立山町出身、小中学校長歴任、上東中在職時に作詞）、富山市・堀川中の南日實（富山市出身、初代校長）、同旧南部中（現在は別曲）の湯口池鶴子（富山市出身、当時の生徒・公募当選作品）、高岡市・芳野中の島村英男（高岡市出身、東京で教員生活の後芳野中勤務）である。

昭和 23（1948）年は、3 校中 2 校（66.7%）が該当する。下新川郡入善町・黒東中《入善西中に統合》の柚木武夫（滑川市出身、高等学校長歴任、富山女子短期大学教授、黒部市・白鷹中《鷹施中に統合》、富山市・富山第一高の校歌も作詞）、同飯野中《入善西中に統合》の広野清秀（入善町青木出身、入善町教育長、校長在職時作詞）、富山市・富山大附属中の大石修平（氷見市出身、富山師範学校教員、東京都立大教員、中新川郡立山町・立山中央小、旧婦負郡八尾町・現富山市・室牧小《八尾小に統合》の校歌も作詞）である。

昭和 24（1949）年は、15 校中 9 校（60%）が該当する。下新川郡入善町・入善中の松原耕一（入善町荒屋出身、東京都小学校教諭、当校在職時に作詞）、滑川市・滑川中の浦田三郎（魚津市出身、俳人、中学校長歴任、富山県中学校教育研究会会長、魚津市・上中島小の校歌も作詞）、中新川郡上市町・旧上市中の野沢潤（富山市水橋出身、上市中校長、魚津東部中校長歴任）、富山市・水橋中の池館速雲（富山市三郷出身、寺院住職、初代校長、水橋町教育長）、旧上新川

郡大沢野町・現富山市・大久保中《興南中に統合》の長永文明（当時の教諭、細入村大沢野町教育委員長）、旧婦負郡八尾町・現富山市・杉原中の木村彦蔵（八尾町出身、小中学校長歴任、2代目校長、旧山田村・現富山市・山田尋常小校歌を2度作詞）、旧新湊市・現射水市・新湊中部中《新湊中に統合》の伝田税（新湊中部中3代目校長）、高岡市・高岡西部中の西部中職員、旧西砺波郡福光町・現南砺市・福光中の吉波庄作（福光町出身、旧制砺波中学校長）である。

昭和25（1950）年は、18校中6校（33.3%）が該当する。下新川郡朝日町・泊中《朝日中に統合》の廣川親義（入善町野中出身、歌人、朝日町教育委員長、朝日町・朝日中、朝日町・五箇庄小、入善町・上青中《入善西中に統合》、高岡市・西広谷小《休校》も作詞）、黒部市・白鷹《鷹施中に統合》の柚木武夫（滑川市出身、高等学校長歴任、富山女子短期大学教授）、同桜井中部中《桜井中に統合》の教職員たち、旧新湊市・現射水市・新湊西部中《新湊中に統合》の卯尾田みどり（新湊市出身、新湊西部中校長、富山県保育専門学院長）、高岡市・北砺中《国吉中に統合》の中山安美（福岡町出身、教諭在職時に作詞）、小矢部市・石動中の水牧良三（小矢部市出身、中学校長歴任）

昭和26（1951）年は、21校中4校（19.0%）が該当する。下新川郡入善町・上青中《入善西中に統合》の廣川親義（入善町野中出身、歌人、朝日町教育委員長、朝日町・朝日中、同泊中《朝日中に統合》、朝日町・五箇庄小《さみさと小に統合》、高岡市・西広谷小《休校》も作詞）、富山市・奥田中の塚田長夫（当時の教頭）、高岡市・高岡北部中《現志貴野中》の宮崎健三（高岡市出身、小中教諭、和光大教授、在職時作詞）、氷見市・灘浦中の畑中正也（氷見市宇波町出身、小中学校長歴任、校長在職時に作詞）である。

これ以降となると、ある程度校歌が出そろったことにより、年間の制定数そのものが激減する。たとえば、昭和27（1952）年が11校、昭和28（1953）年が6校、昭和29（1954）年が1校、昭和30（1955）年が4校、昭和31（1956）年が1校といった具合である。教育関係者による作詞はその後も見られるが、数は次第に減少していく。

（3）主な作詞者たち

①小学校で作詞が多かった和田徳一と中山輝

富山大学教授で県内の万葉研究の大家として知られた和田徳一（1900年徳島県生～1980年没）は、小学校では21校だったが、中学校では2校（富山市・山室中、氷見市・北部中）に留まっている。また、郷土詩壇の名士として知られ、北日本新聞社代表取締役を務めた中山輝（1905年立山町生～1977年没）は、小学校では22校だったが、中学校になると4校（旧婦負郡八尾町・現富山市・仁歩中《八尾中に統合》、氷見市・南部中、砺波市・般若中、旧上平村・現南砺市・上平中《平中に統合》）に留まっている。

②廣川親義

廣川親義は、下新川郡入善町野中出身で、小学校教諭を経て北日本新聞社魚津支局長、朝日町教育委員長を務めた人物で、歌集『短歌時代』を主宰した郷土の歌人である。下新川郡朝日町・朝日中、同泊中《朝日中に統合、校歌は別曲》、入善町・上青中《入善西中に統合》、高岡市・南星中の校歌を作詞している。また、朝日町・五箇庄小の校歌も作詞している。

③大島文雄

大島文雄は、1902（明治35）年に富山市覚中町（現在の富山市にある山王社付近）に生まれ、

富山大学文理学部教授、富山女子短期大学教授、富山市教育委員長、富山県芸術文化協会会長を務め、1991（平成3）年に89歳で死去した人物である。

『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』（2014年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第5巻）に掲載した大島文雄の校歌年表（制定年順）に基づき、一部訂正して地域別・時代別に分類し直して再録する。なお、〈数字〉は、『大島文雄先生追想録』に記されている作詞年で、制定年とは若干相違がある。

ア. 地域別

- ・中新川郡上市町

〔南加積小（1952年、50歳）〕

- ・中新川郡立山町

立山中（1953年、51歳）

〔立山芦峠小《休校》（1979〈1978〉年、77歳）〕

- ・富山市

北部中（1948年、46歳）、**岩瀬中**（1949年、47歳）、**和合中**（1950年〈1949年〉、48歳）、**呉羽中**（1950年、48歳）、**新庄中**（1951年、49歳）、**大泉中**（1954年、52歳）、**月岡中**（1955年、53歳）、**西部中**（1960年、58歳）、**興南中**（1983〈1982〉年、81歳）、**藤ノ木中**（1988年、86歳）

〔大広田小（1950〈昭24〉年、48歳）、不二越工業高（1951年、49歳）、富山北部高（1951〈昭25〉年、49歳）、池多小（1952年、50歳）、西田地方小（1952〈1950〉年、50歳）、萩浦小（1954年、52歳）、八幡小（1954年、52歳）、富山高（1954年、52歳）、富山女子高《現富山いずみ高》（1956年、54歳）、寒江小（1959年、57歳）、奥田小（1960〈1959〉年、58歳）、草島小（1961年、59歳）、倉垣小（1961年、59歳）、新保小（1961年、59歳）、北日本電波高《現高朋高》（1962年、60歳）、星井町小（1963年、61歳）、富山女子短大《現富山短大》（1964年、62歳）、〔富山産業高《現中央農業高》、富山養護学校《現富山総合支援学校》（1968年、66歳）、富山南高（1976年、74歳）、富山大経済学部（1976年、74歳）、山室中部小（1977年、75歳）〕

- ・富山市（旧上新川郡大沢野町）

大沢野中（1951年、49歳）

〔大沢野工業高《富山工業高に統合》（1961年、59歳）、大沢野小（1966〈1965〉年、64歳）〕

- ・富山市（旧上新川郡大山町）

〔文殊寺小《上滝小に統合》（1953年、51歳）、上滝小（1953年、51歳）、大庄小（1955年、53歳）〕

- ・富山市（旧婦負郡婦中町）

速星中（1951年、49歳）、**城山中**（1951年、49歳）、**音川中**《城山中に統合》（1957年、55歳）

〔神保小（1954年、52歳）〕

- ・富山市（旧婦負郡山田村）

山田中（1951年、49歳）

- ・富山市（旧婦負郡八尾町）

八尾中（1950年、48歳）、**野積中**《八尾中に統合》（1957年、57歳）

〔保内小（1954年、52歳）、野積小《八尾小に統合》（1962年、60歳）、下笹原小《八尾小に統合》

- (1963年、61歳)]
- ・射水市 (旧新湊市)
射北中 (1950年、48歳)
〔片口小 (1952年、50歳)、作道小 (1959年、57歳)、富山商船高専《現富山高等専門学校射水キャンパス》、東明小 (1975年、73歳)〕
 - ・射水市 (旧射水郡小杉町)
小杉中 (1952〈1951〉年、50歳)
〔大江小 (1954年、52歳)、黒河小《歌の森小に統合》(1961年、59歳)、太閤山小 (1973〈1972〉年、71歳)、〔歌の森小 (1983年、81歳)〕
 - ・射水市 (旧射水郡大門町)
大門中 (1971年、69歳)
〔大門小 (1966年、64歳、現在の校歌とは別曲)〕、
 - ・射水市 (旧射水郡下村)
〔下村小 (1953〈1952〉年、51歳)〕
 - ・高岡市
中田中 (1950年、48歳)、高陵中 (1951年、49歳)、牧野中 (1970年、68歳)
〔旧中田小 (1953〈1952〉年、51歳)、博労小 (1955〈1954〉年、53歳)、立野小 (1956年、54歳)、戸出小 (1959年、57歳)、保育専門学院《廃校》(1960年、58歳)、石堤小 (1961年、59歳)、高岡東高《→高岡日大高→高岡向陵高》(1962年、60歳)、中田小《統合》(1966年、64歳)、志貴野高 (1966年、64歳)、千鳥丘小 (1968年、66歳)、戸出東部小 (1968年、66歳)、こまどり養護学校《現こまどり支援学校》(1968年、66歳)、万葉小 (1979年、77歳)〕
 - ・高岡市 (旧西砺波郡福岡町)
〔西五位小《福岡小に統合》(1962年、60歳)〕
 - ・小矢部市
〔北蟹谷小《蟹谷小に統合》(1960年、58歳)〕、〔小矢部産業高《現小矢部園芸高》(1968年、66歳)〕
 - ・砺波市
〔東野尻小《砺波南部小に統合》(1953年、51歳)、西野尻小《=安居小、福野中部小に統合後、さらに福野小に統合》(1953年、51歳)、油田小《砺波南部小に統合》(1957年、55歳)、砺波工業高 (1964年、62歳)、砺波北部小 (1972〈1971〉年、70歳)〕
 - ・南砺市 (旧東砺波郡庄川町)
庄川中 (1950年、48歳)
 - ・南砺市 (旧東砺波郡城端町)
城端中 (1950年、48歳)
 - ・南砺市 (旧東砺波郡平村)
〔下梨小梨谷分校《平小に統合後、さらに上平小に統合》(1963年、61歳)〕
 - ・南砺市 (旧東砺波郡井波町)
〔井波高 (1961年、59歳)〕

- ・南砺市（旧東砺波郡井口村）
井口中（1950年、48歳）
- ・南砺市（旧東砺波郡福野町）
〔福野小（1969年、67歳）〕
- ・南砺市（旧西砺波郡福光町）
太美中《福光中に統合》（1957年、55歳）
〔太美小《福光南部小に統合》（1957年、55歳）〕

イ. 時代別

- 1948（昭和23）年 46歳 富山市・北部中
- 1949（昭和24）年 47歳 富山市・岩瀬中
〔富山大学文理学部教授〕
- 1950（昭和25）年 48歳 富山市・和合中〈1949〉、富山市・呉羽中、旧婦負郡八尾町・現富山市・八尾中、旧新湊市・現射水市・射北中、高岡市・中田中、旧東砺波郡庄川町・現南砺市・庄川中、旧東砺波郡城端町・現南砺市・城端中、旧東砺波郡井口村・現南砺市・井口中
〔富山市・大広田小〈1949〉〕
- 1951（昭和26）年 49歳 富山市・新庄中、旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野中、旧婦負郡婦中町・現富山市・速星中、同城山中、旧婦負郡山田村・現富山市・山田中、高岡市・高陵中
〔富山市・不二越工業高、富山市・富山北部高〕
- 1952（昭和27）年 50歳 旧射水郡小杉町・現射水市・小杉中〈1951〉
〔中新川郡上市町・南加積小、富山市・池多小、富山市・西田地方小〈1950〉、旧新湊市・現射水市・片口小〕
- 1953（昭和28）年 51歳 中新川郡立山町・立山中
〔旧上新川郡大山町・現富山市・文殊寺小《上滝小に統合》、同・上滝小、砺波市・東野尻小《砺波南部小に統合》、旧射水郡下村・現射水市・下村小〈1952〉、砺波市・西野尻小《＝安居小、福野中部小に統合後、さらに福野小に統合》、高岡市・旧中田小〈1952〉〕
- 1954（昭和29）年 52歳 富山市・大泉中
〔富山市・菰浦小、富山市・八幡小、旧婦負郡婦中町・現富山市・神保小、旧射水郡小杉町・現射水市・大江小、旧婦負郡八尾町・現富山市・保内小、富山市・富山高〕
- 1955（昭和30）年 53歳 富山市・月岡中
〔旧上新川郡大山町・現富山市・大庄小、高岡市・博労小〈1954〉〕
- 1956（昭和31）年 54歳 〔高岡市・立野小、富山市・富山女子高〕
- 1957（昭和32）年 55歳 旧婦負郡八尾町・現富山市・野積中《八尾中に統合》、旧西砺波

- 郡福光町・現南砺市・**太美中**《福光中に統合》、旧婦負郡婦中町・現富山市・**音川中**《城山中に統合》
〔旧西砺波郡福光町・現南砺市・太美小《福光南部小に統合》、砺波市・油田小《砺波南部小に統合》〕
- 1959 (昭和 34) 年 57 歳 〔高岡市・戸出小、富山市・寒江小、旧新湊市・現射水市・作道小〕
- 1960 (昭和 35) 年 58 歳 富山市・**西部中**
〔富山市・奥田小 (1959)、小矢部市・北蟹谷小《蟹谷小に統合》、高岡市・保育専門学院《廃校》〕
- 1961 (昭和 36) 年 59 歳 〔富山市・草島小、富山市・倉垣小、富山市・新保小、高岡市・石堤小、旧射水郡小杉町・現射水市・黒河小《歌の森小に統合》、旧東砺波郡井波町・現南砺市・井波高、旧上新川郡大山町・現富山市・大沢野工業高《富山工業高に統合》〕
- 1962 (昭和 37) 年 60 歳 〔旧婦負郡八尾町・現富山市・野積小《八尾小に統合》、旧西砺波郡福岡町・現高岡市・西五位小《福岡小に統合》、高岡市・高岡東高《→高岡日大高→高岡向陵高》、富山市・北日本電波高《現高朋高》〕
- 1963 (昭和 38) 年 61 歳 〔旧婦負郡八尾町・現富山市・下笹原小《八尾小に統合》、富山市・星井町小、旧東砺波郡平村・現南砺市・下梨小梨谷分校《平小に統合後、さらに上平小に統合》〕
- 1964 (昭和 39) 年 62 歳 〔砺波市・砺波工業高、富山市・富山女子短大《現富山短大》〕
- 1966 (昭和 41) 年 64 歳 〔旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野小 (1965)、高岡市・中田小《統合》、旧射水郡大門町・現射水市・大門小、高岡市・志貴野高、富山市・富山産業高《現中央農業高》〕
- 1968 (昭和 43) 年 66 歳 〔高岡市・千鳥丘小、高岡市・戸出東部小、小矢部市・小矢部産業高《現小矢部園芸高》、富山養護学校《現富山総合支援学校》、こまどり養護学校《現こまどり支援学校》〕
〔富山大学退官〕
- 1969 (昭和 44) 年 67 歳 〔旧東砺波郡福野町・現南砺市・福野小、旧新湊市・現射水市・富山商船高専《現富山高等専門学校射水キャンパス》〕
- 1970 (昭和 45) 年 68 歳 高岡市・**牧野中**
〔富山市教育委員長〕
- 1971 (昭和 46) 年 69 歳 旧射水郡大門町・現射水市・**大門中**
- 1972 (昭和 47) 年 70 歳 〔砺波市・砺波北部小 (1971)〕
- 1973 (昭和 48) 年 71 歳 〔旧射水郡小杉町・現射水市・太閤山小 (1972)〕
- 1975 (昭和 50) 年 73 歳 〔旧新湊市・現射水市・東明小〕
- 1976 (昭和 51) 年 74 歳 〔富山市・富山南高、富山市・富山大経済学部〕
- 1977 (昭和 52) 年 75 歳 〔富山市・山室中部小〕
- 1979 (昭和 54) 年 77 歳 〔中新川郡立山町・立山芦畷小 (1978)《休校》、高岡市・万葉小〕

1983（昭和58）年 81歳 富山市・興南中〈1982〉

〔旧射水郡小杉町・現射水市・歌の森小〕

1988（昭和63）年 86歳 富山市・藤ノ木中

上記の表から、最も数が多いのは小学校であることがわかるが、同様に中学校校歌も数多く作詞している。地域別では、前述のように富山市、新旧富山市周辺部が圧倒的に多く、県西部の小矢部市、砺波市は1校もない。時代別では、富山大学文理学部教授になった翌年の昭和25（1950）年（8校）と昭和26（1951）年（6校）が多い。昭和36（1961）年から昭和44（1969）年までと、昭和47（1972）年から昭和54（1979）年までは1校もなく、昭和58（1983）年と昭和63（1988）年にそれまでの集大成であるかのように新設校2校の校歌を作詞している。

2 作曲者

(1) 地域別に見た場合

富山県内の中学校校歌の作曲者を見ると、地元またはその周辺出身者が多い地域、特定の作曲者が多い地域に大別できる。

① 地元またはその周辺の出身者が多い地域

下新川郡朝日町では、延べ4校中2校が該当する。泊中《朝日中に統合》の小澤慎一郎（朝日町泊出身、富山大名誉教授、富山県合唱連盟理事長）、境中《泊中に統合後、朝日中に統合》の黒坂富治（朝日町泊出身、富山大名誉教授）である。

下新川郡入善町では、延べ6校中5校が該当する。入善中の窪野康則（入善町出身、県教委指導主事、在職時に作曲）、舟見中《入善中に統合》、上青中《入善西中に統合》、飯野中《入善西中に統合》の小澤慎一郎（朝日町泊出身、富山大名誉教授、富山県合唱連盟理事長）、黒東中《入善西中に統合》の米田天海（入善町新屋出身、岐阜大教授）である。

宇奈月町を除く旧黒部市では、延べ7校中4校が該当する。布施中《鷹施中に統合》と白鷹（西部）中《鷹施中に統合》の橋本秀次（入善町新屋出身、金沢大教授）、桜井中部中《桜井中に統合》の黒坂富治（朝日町泊出身、富山大名誉教授）、桜井東部中《桜井中に統合》の小澤慎一郎（朝日町泊出身、富山大名誉教授、富山県合唱連盟理事長）である。

魚津市では、加積中《東部中に統合》の小澤達三（朝日町泊出身、小学校長歴任、小澤慎一郎は弟、他に上市町・不動中《上市中に統合》、小学校校歌9校を作曲）、西部中の福井直秋（上市町江上出身）が挙げられる。

滑川市では、滑川中と早月中の福井直秋（上市町江上出身、武蔵野音楽大学創設）が挙げられる。

中新川郡上市町では、上市中の福井直俊（上市町江上出身の福井直秋の長男、ピアニスト、武蔵野音大教授）、同旧上市中の古崎文雄（舟橋村出身、中学校教諭歴任）が挙げられる。

合併前の高岡市では、11校中8校が該当する。高陵中、高岡西部中、南星中、国吉中、中田中の室崎琴月（高岡市出身、作曲家、中央音楽学校設立）、芳野中と牧野中の宮下舜爾（樺太出身、高岡市在住の作曲家、元北日本放送社長室長）、五位中の倉谷庄太郎（小矢部市石動出身、小学校長歴任、当校在職時に作曲）である。

また、高岡市と合併した旧西砺波郡福岡町では、福岡中の山本志家が、出身地は不明だが当校

在職時に作曲している。

氷見市では、延べ 12 校中 6 校が該当する。余川谷中《北部中に統合》と八代中《北部中に統合》の三木乗俊（氷見市出身、高等学校教諭歴任）、西部中の池永哲朗（氷見市出身、中学校教諭歴任）、灘浦中の越田毅（氷見市出身、小学校長歴任）、北部中の宮下舜爾（樺太出身、高岡市在住の作曲家、元北日本放送社長室長）、十三中の室崎琴月（高岡市出身、作曲家、中央音楽学校設立）である。また、西條中の森和子は、出身地は不明だが当校在職時に作曲している。

また、割合は多くないが地元または周辺地域の出身者による作曲がいくつか見られる。旧婦負郡八尾町・現富山市・杉原中の木村彦蔵（八尾町出身、中学校長歴任、2 代目校長）、旧新湊市・現射水市・新湊中の澤武紀行（旧新湊市・現射水市出身、声楽家）、砺波市・般若中の大澤欽治（庄川町雄神出身、富山大名誉教授）、旧東砺波郡平村・現南砺市・平中の佐藤進（城端町出身、父親の仕事の関係で上平村に移住、中学校長歴任）が該当する。

②特定の作曲者が多い地域

下新川郡朝日町、同入善町、旧黒部市、魚津市は、小澤慎一郎（富山大名誉教授、富山県合唱連盟理事長）、小澤達三（小学校長歴任）、黒坂富治（富山大名誉教授）による作曲が多い（①を参照）が、これら 3 人はともに下新川郡朝日町泊出身で、小沢慎一郎は小澤達三の弟にあたる。

旧富山市及び富山市に合併した周辺地域、富山市の東側の周辺地域は、福井直秋（上市町江上出身、武蔵野音楽大学創設）による作曲が多い。

旧富山市では、和合中、月岡中、呉羽中、水橋中が該当する。富山市と合併した周辺地域では、旧上新川郡大山町の上滝中、旧婦負郡山田村の山田中、同八尾町の八尾中、同細入村の楡原中が該当する。

旧富山市の東側に隣接する地域では、滑川市・滑川中、同早月中、中新川郡立山町・上東中《雄山中に統合》が該当する。

また、前述のように高岡市では、室崎琴月（高岡市出身、作曲家、中央音楽学校設立）が高陵中、高岡西部中、南星中、国吉中、中田中の校歌を作曲している。

(2) 時代別に見た場合

①師範学校教員

小学校では、明治・大正・昭和初期では師範学校教員作曲による校歌が多かった。中学校では、戦後新制中学校が発足したため、師範学校教員によるものは少ない。荒木得三（城端町出身）が、富山市・北部中（1948 年）、旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・黒部中《現宇奈月中》（1951 年）、旧婦負郡婦中町・現富山市・城山中（1951 年）の 3 校を作曲しているのみである。

②教員経験者による作曲

中学校では、小学校校歌に見られるほど校長や教諭などの教職経験者による作曲は多くない。しかし、下記の表のように、昭和 24（1949）年が 5 校、昭和 26（1951）年が 7 校と比較的多くなっている。

・昭和 22（1947）年

魚津市・加積中《現東部中》・小澤達三（朝日町泊出身、小学校長歴任、小澤慎一郎は弟）、富山市・堀川中・荒井三千男（小学校長歴任、当校在職時作曲）

・昭和 23（1948）年

富山市・北部中・荒木得三（富山師範学校教諭、県下音楽界に貢献）

・昭和 24（1949）年

下新川郡入善町・入善中・窪野康則（入善町出身、県教委指導主事、当校在職時作曲）、中新川郡上市町・旧上市中・古崎文雄（舟橋村出身、中学校教諭歴任）、富山市・白岩中《現三成中》・黒田政信（立山町出身、小学校長経験者）、旧婦負郡八尾町・現富山市・杉原中・木村彦蔵（八尾町出身、2代目校長）、旧西砺波郡福光町・現南砺市・福光中・柴田義正（小中学校教諭・県体育協会主事）

・昭和 25（1950）年

小矢部市・石動中・大家規一（中学校長歴任）

・昭和 26（1951）年

旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・黒部中《現宇奈月中》及び旧婦負郡婦中町・現富山市・城山中・荒木得三（富山師範学校教諭、県下音楽界に貢献）、富山市・山室中・小林和孝（中学校長歴任、教諭在職時作曲）、富山市・奥田中・長能康男（当時の校長）、高岡市・五位中・倉谷庄太郎（小矢部市石動出身、小学校長歴任、当校在職時作曲）、氷見市・灘浦中・越田毅（氷見市出身、宇波小学校長等歴任）

・昭和 27（1952）年

氷見市・八代中《北部中に統合》・三木乗俊（氷見市出身、高等学校教諭歴任）

・昭和 28（1953）年

中新川郡上市町・不動中《上市中に統合》・小澤達三（朝日町泊出身、小学校長歴任、小澤慎一郎は弟）

・昭和 30（1955）年

旧西砺波郡福岡町・現高岡市・福岡中・山本志家（当校在職時に作曲）、氷見市・余川谷中《北部中に統合》・三木乗俊（氷見市出身、高等学校教諭歴任）

・昭和 32（1957）年

氷見市・旧北部中・上野純子（中学校教諭歴任）

・昭和 38（1963）年

氷見市・上庄谷中《西部中に統合》・池永哲朗（氷見市出身、中学校教諭歴任）

・昭和 46（1971）年

小矢部市・岩尾滝中《石動中に統合》・大家規一（中学校長歴任）

・平成 17（2005）年

片山学園中高・佐藤進（城端町出身、作曲家、中学校教諭歴任）

・平成 21（2009）年

旧東砺波郡平村・現南砺市・平中・佐藤進（城端町出身、作曲家、中学校教諭歴任）

（3）特定の人物による作曲

①室崎琴月

室崎琴月（本名：清太郎）は、1891（明治 24）年 2 月 20 日に高岡市木舟町に生まれた。1919（大正 8）年に東京音楽学校研究科を修了後、1921（大正 10）年に『夕日』を発表し注目された。1928（昭和 3）年、中央音楽学校を設立したが、1945（昭和 20）年東京大空襲で校舎

や家屋を失い、高岡市に戻って中央音楽学校分教場を開設するとともに、高岡中学校の教員も務めた。1977（昭和52）年に86歳で死去している。

『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』（2014年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第5巻）に掲載した室崎琴月の校歌年表（制定年順）を地域別・時代別に分類し直して再録する。

ア. 地域別

・黒部市

〔三日市小（1959年、68歳）〕

・富山市（旧婦負郡婦中町）

速星中（1951年、60歳）

〔古里小（1953年、62歳）、新保小（1961年、70歳）〕

・富山市（旧上新川郡大山町）

〔大庄小（1955年、64歳）〕

・射水市（旧新湊市）

〔片口小（1952年、61歳）、中伏木小《新湊小に統合》（1953年、62歳）〕

・高岡市

高岡西部中（1949年、58歳）、**国吉中**（1950年、59歳）、**中田中**（1950年、59歳）、**高岡東部中**《**現高陵中**》（1951年、60歳）、**南星中**（1959年、68歳）

〔川原小（1921年、30歳、母校）、平米小（1929年、38歳）、佐野小（1950年、59歳《何条小に統合》）、西条小（1951年、60歳）、小勢小《千鳥丘小に統合》（1954年、63歳）、東五位小（1955年、64歳）、博労小（1955年、64歳）、石堤小（1961年、70歳）、高岡東高《→高岡日大高→現高岡向陵高》（1962年、71歳）、こまどり養護学校《現こまどり支援学校》、南条小（1970年、79歳）、旧高岡西部高《現高岡商業高》〕

・高岡市（旧西砺波郡山王村）

〔山王小《福岡小に統合》（1929年、38歳）〕

・氷見市

十三中（1952年、61歳）

・小矢部市

〔松沢小《大谷小に統合》（不詳）〕

・砺波市

出町中（1949年、48歳）

・砺波市（旧東砺波郡庄川町）

庄川中（1950年、59歳）

・南砺市（旧東砺波郡利賀村）

〔旧利賀小（1962年、71歳）〕

イ. 時代別

1921（大正10）年 30歳 〔高岡市・川原小（母校）〕

〔『夕日』発表〕

- 1928 (昭和 3) 年 37 歳 [中央音楽学校設立]
- 1929 (昭和 4) 年 38 歳 [高岡市・平米小 (隣接する校下)]
- 1945 (昭和 20) 年 54 歳 [高岡市に戻る]
[旧制高岡中学 (～昭和 23 年)、高岡市・南部中学《現南星中》(昭和 23 年)、高岡市・県立高岡西部高《現高岡商業高》(～昭和 27 年)に勤務]
- 1949 (昭和 24) 年 58 歳 高岡市・高岡西部中、砺波市・出町中
[旧西砺波郡山王村・現高岡市・山王小《福岡小に統合》]
- 1950 (昭和 25) 年 59 歳 高岡市・国吉中、同中田中、旧東砺波郡庄川町・現砺波市・庄川中
[高岡市・佐野小《南条小に統合》]
- 1951 (昭和 26) 年 60 歳 旧婦負郡婦中町・現富山市・速星中、高岡市・高岡東部中《高陵中》
[高岡市・西条小]
- 1952 (昭和 27) 年 61 歳 氷見市・十三中
[旧新湊市・現射水市・片口小]
- 1953 (昭和 28) 年 62 歳 [旧婦負郡婦中町・現富山市・古里小、旧新湊市・現射水市・中伏木小《新湊小に統合》]
[高岡市桜川・現本丸町に中央音楽学校独立分校校舎完成]
- 1954 (昭和 29) 年 63 歳 [高岡市・小勢小《千鳥丘小に統合》]
- 1955 (昭和 30) 年 64 歳 [旧上新川郡大山町・現富山市・大庄小、高岡市・東五位小、高岡市・博労小]
- 1959 (昭和 34) 年 68 歳 高岡市・南星中
[黒部市・三日市小]
- 1961 (昭和 36) 年 70 歳 [富山市・新保小、高岡市・石堤小]
- 1962 (昭和 37) 年 71 歳 [旧東砺波郡利賀村・現南砺市・旧利賀小、高岡市・高岡東高《→高岡日大高→現高岡向陵高》]
- 1968 (昭和 43) 年 77 歳 [こまどり養護学校《現こまどり支援学校》]
[高岡を離れ、中央音楽学校再建]
- 1970 (昭和 45) 年 79 歳 [高岡市・南条小]
不詳 [小矢部市・松沢小《大谷小に統合》、(旧高岡西部高《現高岡商業高》)]

地域別では、出身地である高岡市が 5 校と最も多い。時代別では、1949 (昭和 24) 年から 1952 (昭和 27) 年、58 歳から 61 歳にかけての時期に作られたものが 4 校となっている。この時期は、室崎琴月が戦災で家屋と校舎を失い、故郷の高岡市に戻って市内の学校に勤務していた時期にあたる。もう 1 校は室崎琴月が作曲した最後の中学校校歌で、かつての勤務校、高岡市の南星中であつた。

②福井直秋

福井直秋は、1877 (明治 10) 年に中新川郡宮川村・現上市町江上の浄誓寺の五男として生ま

れた。富山師範学校教員、長野師範学校教員（草川信は当時の生徒）を経て、1929（昭和 4）年に武蔵野音楽大学の前身、武蔵野音楽学校を設立した。1949（昭和 24）年、武蔵野音楽大学初代学長となった。1963（昭和 38）年に 86 歳で死去している

『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』（2014 年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第 5 巻）に掲載した福井直秋の校歌年表（制定年順）に基づき、修正を加え地域別・時代別に分類し直して再録する。

ア. 地域別

- ・黒部市

〔三日市農業学校《現桜井高》（1940 年、63 歳）〕

- ・魚津市

西部中（1951 年、74 歳）

〔旧制魚津中《現魚津高》（1921 年、44 歳）、魚津高女《現魚津高》（不詳）〕

- ・滑川市

滑川中（1949 年、72 歳）、**早月中**（1949 年、72 歳）

〔滑川高女《現滑川高》（1937 年、60 歳）、浜加積小《東部小に統合》（1949 年、72 歳）〕

- ・中新川郡上市町

〔宮川小（1960 年、83 歳）、上市中央小（1960 年、83 歳）、旧宮川小（不詳）〕

- ・中新川郡立山町

上東中（1948 年、71 歳）

〔五百石小《立山中央小に統合》（1931 年、54 歳）、谷口小《休校》（1948 年、71 歳）、下段小《立山中央小に統合》（1950 年、73 歳）、高野小（1952 年、75 歳）、立山芦峯小《立山小に統合》（1957 年、80 歳）〕

- ・富山市

水橋中（1949 年、72 歳）、**和合中**（1950 年、73 歳）、**呉羽中**（1950 年、73 歳）、**月岡中**（1955 年、78 歳）

〔総曲輪小《芝園小に統合》（1950 年、73 歳）、富山工業高（1952 年、75 歳）、水橋西部小（不詳）〕

- ・富山市（旧婦負郡山田村）

山田中（1951 年、74 歳）

- ・富山市（旧婦負郡八尾町）

八尾中（1950 年、73 歳）

- ・富山市（旧婦負郡細入村）

楡原中（不詳）

- ・富山市（旧上新川郡大山町）

上滝中（不詳）

〔上滝小（1953 年、76 歳）〕

- ・射水市（旧新湊市）

〔県立商船学校《現富山高等専門学校》（1932 年、55 歳）〕

- ・射水市（旧射水郡小杉町）
〔小杉農業公民学校《現小杉高》（1923年、46歳）〕
- ・射水市（旧射水郡下村）
〔下村小（1953年、76歳）〕
- ・高岡市
〔古府小（1940年、63歳）、戸出小（1959年、82歳）、伏木小（不詳）〕
- ・氷見市
〔旧制氷見中（1929年、52歳）〕
- ・砺波市
庄西中（1949年、72歳）

イ. 時代別

- | | | |
|-------------|-----|--|
| 1921（大正10）年 | 44歳 | 〔旧制魚津中《現魚津高》〕 |
| 1923（大正12）年 | 46歳 | 〔小杉農業公民学校《現小杉高》〕 |
| 1929（昭和4）年 | 52歳 | 〔旧制氷見中《現氷見高》〕
〔武蔵野音楽学校設立〕 |
| 1931（昭和6）年 | 54歳 | 〔中新川郡立山町・五百石小《立山中央小に統合》〕 |
| 1932（昭和7）年 | 55歳 | 〔下新川郡入善町・櫛山小《桃李小に統合》、県立商船学校《現富山高等専門学校》〕 |
| 1937（昭和12）年 | 60歳 | 〔滑川高女《現滑川高》〕 |
| 1940（昭和15）年 | 63歳 | 〔高岡市・古府小、黒部市・三日市農業学校《現桜井高》〕 |
| 1948（昭和23）年 | 71歳 | 中新川郡立山町・上東中
〔中新川郡立山町・谷口小《休校》〕 |
| 1949（昭和24）年 | 72歳 | 滑川市・滑川中、同早月中、富山市・水橋中、砺波市・庄西中
〔滑川市・浜加積小《東部小に統合》〕
〔武蔵野音楽大学初代学長〕 |
| 1950（昭和25）年 | 73歳 | 富山市・和合中、富山市・呉羽中、旧婦負郡八尾町・現富山市・八尾中
〔富山市・総曲輪小《芝園小に統合》、中新川郡立山町・下段小《立山中央小に統合》〕 |
| 1951（昭和26）年 | 74歳 | 魚津市・西部中、旧婦負郡山田村・現富山市・山田中 |
| 1952（昭和27）年 | 75歳 | 〔中新川郡立山町・高野小、富山市・富山工業高〕 |
| 1953（昭和28）年 | 76歳 | 〔旧上新川郡大山町・現富山市・上滝小、旧射水郡下村・現射水市・下村小〕 |
| 1955（昭和30）年 | 78歳 | 富山市・月岡中 |
| 1957（昭和32）年 | 80歳 | 〔中新川郡立山町・立山芦嶮小《立山小に統合》〕 |
| 1958（昭和33）年 | 81歳 | 〔「福井音楽賞」創設〕 |
| 1959（昭和34）年 | 82歳 | 〔高岡市・戸出小〕 |
| 1960（昭和35）年 | 83歳 | 中新川郡上市町・宮川小、同上市中央小 |

不詳 旧上新川郡大山町・現富山市・上滝中、旧婦負郡細入村・現富山市・楡原中

〔下新川郡入善町・旧飯野小（大正時代）、中新川郡上市町・旧宮川小、富山市・水橋西部小、高岡市・伏木小、魚津市・魚津高女《現魚津高》〕

これを見ると、福井直秋が中学校校歌を作曲したのは、魚津市から旧富山市及びその周辺部にかけてであり、県西部は砺波市の庄西中を除いて皆無である。また、それらの校歌は、武蔵野音楽大学初代学長となった1949年前後に集中している。

③黒坂富治

『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』（2014年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第5巻）に掲載した黒坂富治の校歌年表（制定年順）に基づき、一部訂正して地域別・時代別に分類し直して再録する。

ア. 地域別

・下新川郡朝日町

〔宮崎小《さみさと小に統合》（1937年、26歳）、五箇庄小《さみさと小に統合》（1940年、29歳）、〔境小《さみさと小に統合》（1947年、36歳）、笹川小《さみさと小に統合》（1948年、37歳）、泊高（1948年、37歳）〕

・下新川郡入善町

〔野中小《ひばり野小に統合》（1956年、45歳）〕

・黒部市

桜井中部中《桜井中に統合》（1950年、39歳）

〔中央小（1977年、66歳）〕

・黒部市（旧下新川郡宇奈月町）

〔愛本小《宇奈月小に統合》（1951年、40歳）、宇奈月小（1972年、61歳）〕

・魚津市

〔加積小《吉島小→清流小に統合》（不詳）、西布施小《清流小に統合》（1953年、42歳）〕

・滑川市

〔中加積小《南部小に統合》（1941年、30歳）、東部小（1969年、58歳）〕、〔早月加積小《東部小に統合》（不詳）〕

・中新川郡上市町

白萩中《上市中に統合》（1947年、36歳）

〔上市高（1950年、39歳）、相ノ木小（1951年、40歳）、大岩小《陽南小に統合》（1952年、41歳）、南加積小（1952年、41歳）、〔音杉小《上市中央小に統合》（不詳）〕

・中新川郡立山町

〔新川東部小《立山北部小に統合》（1953年、42）、東峯小《日中上野小に統合》（1963年、52歳）〕

・富山市

南部中（1977年、66歳）

- [水産高《→海洋高→滑川高に統合》(1948年、37歳)、新庄小(1952年、41歳)、池多小(1952年、41歳)、萩浦小(1954年、43歳)、太田小(1955年、44歳)、三郷小(1964年、53歳)、上条小(1963年、52歳)、富山市・富山産業高《現中央農業高》(1966年、55歳)、富山養護学校《現富山総合支援学校》(1968年、57歳)、針原小(不詳)]
- ・富山市(旧婦負郡婦中町)
[鶉坂小(1951年、40歳)、朝日小(1954年、43歳)、宮野小(1962年、51歳)]
 - ・富山市(旧婦負郡山田村)
[山田小(1938年、27歳)]
 - ・富山市(旧婦負郡八尾町)
仁歩中《八尾中に統合》(不詳)
[杉原小(1940年、29歳)、桐谷小《休校》(1953年、42歳)、保内小(1954年、43歳)、野積小《八尾小に統合》(1962年、51歳)、下笹原小《八尾小に統合》(1963年、52歳)、仁歩小《八尾小に統合》(1975年、64歳)]
 - ・富山市(旧婦負郡細入村)
猪谷中《楡原中に統合》(1956年、45歳)
[楡原小《神通碧小に統合》(1953年、42歳)]、
 - ・富山市(旧上新川郡大沢野町)
大久保中《興南中に統合》(1948年、37歳)
 - ・富山市(旧上新川郡大山町)
[文殊寺小《上滝小に統合》(1953年、42歳)、福沢小(1953年、42歳)]
 - ・射水市(旧射水郡小杉町)
小杉中(1952年、41歳)
[橋下条小《太閤山小に統合》(1954年、43歳)、金山小(1957年、46歳)、黒河小《歌の森小に統合》(1961年、50歳)、太閤山小(1973年、62歳)、中太閤山小(1978年、67歳)]
 - ・高岡市
[立野小《千鳥丘小に統合》(1956年、45歳)、木津小(1982年、71歳)]
 - ・高岡市(旧西砺波郡福岡町)
[赤丸小《福岡小に統合》(1958年、47歳)、福岡小(1968年、57歳)]
 - ・氷見市
南部中(1952年、41歳)、**阿尾中**《北部中に統合》(1967年、56歳)
[上庄小(1941年、30歳)、一芻小《比美乃江小に統合》(1952年、41歳)、岩瀬小《久目小に統合》(1963年、52歳)、上余川小《比美乃江小に統合》(1967年、56歳)、女良小《灘浦小に統合》(1969年、58歳)、湖南小(1973年、62歳)、十二町小(1974年、63歳)]
 - ・小矢部市
蟹谷中(1951年、40歳)、**津沢中**(1951年、40歳)
[北蟹谷小《蟹谷小に統合》(1960年、49歳)、藪波小《蟹谷小に統合》(1967年、56歳)]
 - ・砺波市

〔般若小《庄東小に統合》(1952年、41歳)、東野尻小《砺波南部小に統合》(1953年、42歳)、東般若小《庄東小に統合》(1958年、47歳)〕

- ・ 砺波市 (旧東砺波郡庄川町)
〔種田小《庄川小に統合》(1954年、43歳)〕
- ・ 南砺市 (旧東砺波郡城端町)
〔大鋸屋小《城端小に統合》(1957年、46歳)〕
- ・ 南砺市 (旧東砺波郡上平村)
上平中 (1951年、40歳)
- ・ 南砺市 (旧東砺波郡井波町)
〔南山見小《井波小に統合》(不詳)〕
- ・ 南砺市 (旧東砺波郡井口村)
井口中 (1950年、39歳)
- ・ 南砺市 (旧東砺波郡福野町)
福野中 (1951年、40歳)
〔福野小 (1969年、58歳)〕
- ・ 南砺市 (旧西砺波郡福光町)
太美中《福光中に統合》(1957年、46歳)

※沖縄県

- ・ 糸満市
〔糸満中 (1966年、55歳)〕
- ・ 与那国町
〔久部良中 (1965年、54歳)〕
〔与那国小 (1965年、54歳)、みなと幼稚園 (1965年、54歳)〕
〔伊是名中 (不詳)〕

イ. 時代別

- | | | |
|----------------|------|---|
| 1936 (昭和 11) 年 | 25 歳 | 〔東京音楽学校卒業、富山県女子師範学校教諭〕 |
| 1937 (昭和 12) 年 | 26 歳 | 〔下新川郡朝日町・宮崎小《さみさと小に統合》〕 |
| 1938 (昭和 13) 年 | 27 歳 | 〔旧婦負郡山田村・現富山市・山田小〕 |
| 1940 (昭和 15) 年 | 29 歳 | 〔下新川郡朝日町・五箇庄小《さみさと小に統合》、旧婦負郡八尾町・現富山市・杉原小〕 |
| 1941 (昭和 16) 年 | 30 歳 | 〔滑川市・中加積小《南部小に統合》、氷見市・上庄小〕 |
| 1943 (昭和 18) 年 | 32 歳 | 〔富山師範学校助教授〕 |
| 1947 (昭和 22) 年 | 36 歳 | 中新川郡上市町・白萩中《上市中に統合》
〔下新川郡朝日町・境小《さみさと小に統合》〕 |
| 1948 (昭和 23) 年 | 37 歳 | 〔下新川郡朝日町・笹川小《さみさと小に統合》、富山市・水産高《→海洋高→滑川高に統合》〕 |
| 1949 (昭和 24) 年 | 38 歳 | 旧上新川郡大沢野町・現富山市・大久保中《興南中に統合》
〔新川郡朝日町・泊高〕 |

- 〔富山大学教育・文理学部助教授〕
- 1950 (昭和 25) 年 39 歳 黒部市・**桜井中部中**《桜井中に統合》、旧東砺波郡井口村・現南
砺波市・**井口中**
〔中新川郡上市町・上市高〕
- 1951 (昭和 26) 年 40 歳 旧東砺波郡上平村・現南砺市・**上平中**《平中に統合》、小矢部
市・**蟹谷中**、旧東砺波郡福野町・現南砺市・**福野中**、小矢部市・
津沢中
〔旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・愛本小《宇奈月小に統合》、
中新川郡上市町・相ノ木小、旧婦負郡婦中町・鶴坂小〕
- 1952 (昭和 27) 年 41 歳 旧射水郡小杉町・現射水市・**小杉中**、氷見市・**南部中**
〔中新川郡上市町・大岩小《陽南小に統合》、同南加積小、氷見
市・一芻小《比美乃江小に統合》、富山市・新庄小、砺波市・般
若小《庄東小に統合》、富山市・池多小〕
- 1953 (昭和 28) 年 42 歳 〔中新川郡立山町・新川東部小《立山北部小に統合》、魚津市・
西布施小《清流小に統合》、旧上新川郡大山町・現富山市・文殊
寺小《上滝小に統合》、旧上新川郡大山町・現富山市・福沢小、
旧婦負郡細入村・現富山市・楡原小《神通碧小に統合》、〔旧婦負
郡八尾町・現富山市・桐谷小《休校》、砺波市・東野尻小《砺波
南部小に統合》〕
- 1954 (昭和 29) 年 43 歳 〔旧射水郡小杉町・現射水市・橋下条小《太閤山小に統合》、富
山市・菽浦小、旧東砺波郡庄川町・現砺波市・種田小《庄川小に
統合》、旧婦負郡婦中町・現富山市・朝日小、旧婦負郡八尾町・
現富山市・保内小〕
- 1955 (昭和 30) 年 44 歳 〔富山市・太田小〕
- 1956 (昭和 31) 年 45 歳 旧婦負郡細入村・**猪谷中**《楡原中に統合》
〔下新川郡入善町・野中小《ひばり野小に統合》、高岡市・立野
小《千鳥丘小に統合》、
- 1957 (昭和 32) 年 46 歳 西砺波郡福光町・現南砺市・**太美中**《福光中に統合》
〔旧東砺波郡城端町・現南砺市・大鋸屋小《城端小に統合》、旧
射水郡小杉町・現射水市・金山小〕
- 1958 (昭和 33) 年 47 歳 〔旧西砺波郡福岡町・現高岡市・赤丸小《福岡小に統合》、砺波
市・東般若小《庄東小に統合》〕
〔『富山県の民謡』〕
- 1960 (昭和 35) 年 49 歳 〔小矢部市・北蟹谷小《蟹谷小に統合》〕
- 1961 (昭和 36) 年 50 歳 〔旧射水郡小杉町・現射水市・黒河小《歌の森小に統合》〕
- 1962 (昭和 37) 年 51 歳 〔旧婦負郡八尾町・現富山市・野積小《八尾小に統合》、旧婦負
郡婦中町・現富山市・宮野小〕
- 1963 (昭和 38) 年 52 歳 〔旧婦負郡八尾町・現富山市・下笹原小《八尾小に統合》、氷見

			市・岩瀬小《久目小に統合》、中新川郡立山町・東峯小《日中上野小に統合》
			〔『富山のわらべ歌』
1964	(昭和 39) 年	53 歳	〔富山市・三郷小]
1965	(昭和 40) 年	54 歳	〔与那国町・久部良中]
			〔与那国町・与那国小、同みなと幼稚園]
			〔文部省教育指導委員として 9~12 月、沖縄県滞在]
1966	(昭和 41) 年	55 歳	〔糸満市・糸満中]
			〔富山市・上条小、富山市・富山産業高《現中央農業高》]
			〔富山大学教育学部教授]
1967	(昭和 42) 年	56 歳	氷見市・阿尾中《北部中に統合》
			〔小矢部市・藪波小《蟹谷小に統合》、氷見市・上余川小《比美乃江小に統合》、
1968	(昭和 43) 年	57 歳	〔旧西砺波郡福岡町・現高岡市・福岡小、富山市・富山養護学校《現富山総合支援学校》]
1969	(昭和 44) 年	58 歳	〔氷見市・女良小《灘浦小に統合》、滑川市・東部小、旧東砺波郡福野町・現南砺市・福野小]
			〔富山大学教育学部附属中学校長 (～昭和 45 年)]
1972	(昭和 47) 年	61 歳	〔旧下新川郡宇奈月町・現黒部市・宇奈月小]
1973	(昭和 48) 年	62 歳	〔旧射水郡小杉町・現射水市・太閤山小、氷見市・湖南小]
1974	(昭和 49) 年	63 歳	〔氷見市・十二町小]
1975	(昭和 50) 年	64 歳	〔旧婦負郡八尾町・現富山市・仁歩小《八尾小に統合》]
1977	(昭和 52) 年	66 歳	富山市・南部中
			〔黒部市・中央小]
			〔富山大学退官、新潟青陵短期大学教授]
1978	(昭和 53) 年	67 歳	〔旧射水郡小杉町・現射水市・中太閤山小]
1982	(昭和 57) 年	71 歳	〔高岡市・木津小]
		不詳	旧婦負郡八尾町・現富山市・仁歩中
			〔魚津市・加積小《清流小に統合》、滑川市・早月加積小《東部小に統合》、中新川郡上市町・音杉小《上市中央小に統合》、富山市・針原小、旧東砺波郡井波町・現南砺市・南山見小《井波小に統合》、〔沖縄県・伊是名中]

上記の表から、黒坂富治の作曲による中学校校歌は県下中に見られるが、その地域は黒部市、中新川郡上市町、旧婦負郡八尾町・現富山市、旧婦負郡細入村・現富山市、旧上新川郡大沢野町・現富山市、氷見市、小矢部市、旧東砺波郡上平村・現南砺市、旧東砺波郡井口村・現南砺市、旧東砺波郡福野町・現南砺市、旧西砺波郡福光町・現南砺市であり、県西部の現在南砺市になっている地域が比較的多い傾向にあるのに対し、中学校数が多い富山市(1校のみ)と高岡市が空白地帯となっているのが目に付く。また、全体数では 14 校であり、小学校に比較すると少ない。

時代別では、富山大学教育・文理学部助教授となった昭和 24（1949）年前後、36 歳から 41 歳にかけてのものが 10 校（71%）と多数を占めている。

④小澤慎一郎

小澤慎一郎は、1913（大正 2）年 6 月 16 日、下新川郡朝日町泊に生まれ、富山大学教育学部名誉教授、洗足学園魚津短期大学教授だった人物である。また、県下の合唱界にも多大な貢献があり、富山県合唱連盟理事長、富山県合唱連盟初代会長を務めた。1985（昭和 58）年 1 月 5 日に 72 歳で死去している。

『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』（2014 年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第 5 巻）に掲載した小澤慎一郎の校歌年表（制定年順）を地域別・時代別に分類し直して再録する。

ア. 地域別

- ・下新川郡朝日町
泊中《朝日中に統合》（1950 年、37 歳）
- ・下新川郡入善町
黒東中《入善西中に統合》（1948 年、35 歳）、飯野中《入善西中に統合》（1948 年、35 歳）、
上青中《入善西中に統合》（1951 年、38 歳）、舟見中《入善中に統合》（1953 年、40 歳）
〔上原小《上青小に統合》（1957 年、44 歳）〕、〔飯野小（1963 年、50 歳）〕
- ・黒部市
桜井東部中《桜井中に統合》（不詳）
〔大布施教場《中央小に統合》（1948 年、35 歳）〕、〔三日市教場《中央小に統合》（1948 年、
35 歳）〕、〔荻生小（1953 年、40 歳）〕、〔田家小《たかせ小に統合》（1962 年、49 歳）〕
- ・滑川市
〔東加積小（1947 年、34 歳）〕、〔山加積小《南部小に統合》（1959 年、46 歳）〕
- ・中新川郡立山町
〔新川西部小《立山北部小に統合》（1952 年、39 歳）〕
- ・富山市
〔西田地方小（1952 年、39 歳）〕、〔愛宕小《芝園小に統合》（1952 年、39 歳）〕、〔柳町小
（1953 年、40 歳）〕、〔八幡小（1954 年、41 歳）〕、〔広田小（1954 年、41 歳）〕、〔豊田小
（1955 年、42 歳）〕、〔長岡小（1955 年、42 歳）〕、〔寒江小（1959 年、46 歳）〕、〔月岡小
（1960 年、47 歳）〕、〔草島小（1961 年、48 歳）〕、〔倉垣小（1961 年、48 歳）〕、〔星井町小
《中央小に統合》（1963 年、50 歳）〕、〔富山工業高専《富山高専に統合》（1974 年、61 歳）〕
- ・富山市（旧婦負郡婦中町）
〔神保小（1954 年、41 歳）〕
- ・富山市（旧婦負郡八尾町）
〔茗ヶ原小《八尾小に統合》（1954 年、41 歳）〕
- ・富山市（旧上新川郡大沢野町）
大久保中《興南中に統合》（1948 年、37 歳）
- ・富山市（旧上新川郡大山町）

〔牧小《小見小に統合》(1966年、53歳)

- ・射水市(旧新湊市)

射北中(1950年、37歳)

〔堀岡小(1953年、40歳)〕、〔富山商船高専《富山高専に統合》(1970年、56歳)〕

- ・射水市(旧射水郡大門町)

大門中(1971年、58歳)、旧**大門中**(1950、37歳)

- ・高岡市

〔二塚小(1943年、30歳)〕、〔二上小《万葉小に統合》(1951年、38歳)〕、〔戸出女子高《廃校》(不詳)〕

- ・高岡市(旧西砺波郡福岡町)

〔西五位小《福岡小に統合》(1962年、49歳)〕

- ・氷見市

〔南小《朝日丘小に統合》(不詳)〕

- ・小矢部市

若林中《大谷中に統合》(1957年、44歳)

〔大谷小(1971年、58歳)〕

- ・砺波市

砺波北部中《出町中に統合》(不詳)

〔砺波工業高(1964年、51歳)〕、〔砺波東部小(1968年、55歳)〕、〔梅檀山小《庄東小に統合》(1969年、56歳)〕

- ・南砺市(旧西砺波郡福光町)

吉江中(1955年、42歳)

〔東太美小《福光南部小に統合》(1961年、48歳)〕、〔福光南部小(1969年、56歳)〕

イ. 時代別

1943(昭和18)年 30歳 〔高岡市・二塚小〕

〔富山師範学校助教授〕

1947(昭和22)年 34歳 〔滑川市・東加積小〕

〔富山県合唱連盟理事長〕

1948(昭和23)年 35歳 下新川郡入善町・**黒東中**《入善西中に統合》、同**飯野中**《入善西中に統合》

〔黒部市・大布施教場《中央小に統合》、黒部市・三日市教場《中央小に統合》〕

1949(昭和24)年 36歳 〔富山大学教育学部助教授〕

1950(昭和25)年 37歳 下新川郡朝日町・**泊中**《朝日中に統合》、新湊市・**射北中**、旧射水郡大門町・現射水市・旧**大門中**

1951(昭和26)年 38歳 下新川郡入善町・**上青中**《入善西中に統合》

〔高岡市・二上小《万葉小に統合》〕

1952(昭和27)年 39歳 〔中新川郡立山町・新川西部小《立山北部小に統合》、富山市・

- 西田地方小、同愛宕小《芝園小に統合》)
- 1953 (昭和 28) 年 40 歳 下新川郡入善町・舟見中
〔黒部市・荻生小、富山市・柳町小、旧新湊市・現射水市・堀岡小〕
- 1954 (昭和 29) 年 41 歳 〔富山市・八幡小、同広田小、旧婦負郡婦中町・現富山市・神保小旧婦負郡八尾町・現富山市・茗ヶ原小《八尾小に統合》〕
- 1955 (昭和 30) 年 42 歳 旧西砺波郡福光町・現南砺市・吉江中
〔富山市・豊田小、同長岡小〕
- 1957 (昭和 32) 年 44 歳 小矢部市・若林中《大谷中に統合》
〔下新川郡入善町・上原小〕
- 1959 (昭和 34) 年 46 歳 〔富山市・寒江小、滑川市・山加積小《南部小に統合》〕
- 1960 (昭和 35) 年 47 歳 〔富山市・月岡小〕
- 1961 (昭和 36) 年 48 歳 〔旧西砺波郡福光町・現南砺市・東太美小《福光南部小に統合》富山市・草島小、富山市・倉垣小〕
- 1962 (昭和 37) 年 49 歳 〔旧西砺波郡福岡町・現高岡市・西五位小《福岡小に統合》、黒部市・田家小《たかせ小に統合》〕
- 1963 (昭和 38) 年 50 歳 〔富山市・星井町小《中央小に統合》、下新川郡入善町・飯野小〕
- 1964 (昭和 39) 年 51 歳 〔砺波市・砺波工業高〕
- 1966 (昭和 41) 年 53 歳 〔旧上新川郡大山町・現富山市・牧小《小見小に統合》〕
- 1968 (昭和 43) 年 55 歳 〔砺波市・砺波東部小〕
- 1969 (昭和 44) 年 56 歳 〔砺波市・梅檀山小《庄東小に統合》〕
- 1970 (昭和 45) 年 57 歳 〔旧新湊市・現射水市・富山商船高専《富山高専に統合》〕
- 1971 (昭和 46) 年 58 歳 〔小矢部市・大谷小、旧西砺波郡福光町・現南砺波市・福光南部小〕
- 1972 (昭和 47) 年 59 歳 旧射水郡大門町・現射水市・大門中
〔富山大学教育学部教授〕
- 1974 (昭和 49) 年 61 歳 〔富山市・富山工業高専《富山高専に統合》〕
- 1976 (昭和 51) 年 63 歳 〔富山大学教育学部附属中学校長〕
- 不詳 黒部市・桜井東部中《桜井中に統合》、砺波市・砺波北部中《出町中に統合》
〔氷見市・南小《朝日丘小に統合》、高岡市・戸出女子高《廃校》〕

地域別では、出身地の下新川郡朝日町周辺の中学校が多い。富山市は中学校数が多い地域だが、旧上新川郡大沢野町・現富山市の大久保中だけである。同様に中学校数が多い高岡市に至っては 1 校もない。また、県西部全体では、現射水市になっている旧新湊市が 1 校、旧大門町が 2 校（新旧・大門中）、小矢部市 1 校、旧西砺波郡福光町・現南砺市が 1 校と少ない。時代別では、1948 (昭和 23) 年から 1957 (昭和 32) 年までの 10 年間にそのほとんどを作曲している。

⑤岩河三郎

岩河三郎は、1923 (大正 12) 年 9 月 9 日に富山市で生まれた作曲家である。小学生や中学生の合唱作品が多い。2013 (平成 25) 年 9 月 16 日、90 歳で死去している。

『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』（2014年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第5巻）に掲載した岩河三郎の校歌年表（制定年順）を地域別・時代別に分類し直して再録する。

ア. 地域別

- ・滑川市
〔南部小（1980年、57歳）〕
- ・中新川郡上市町
〔白萩南部小《休校》（1987年、64歳）〕
- ・中新川郡舟橋村
舟橋中（1979年、56歳）
- ・富山市
西部中（1960年、37歳）
〔光陽小（2002年、79歳）、中央小（2008年、85歳）、新庄北小（2010年、87歳）〕
- ・射水市（旧新湊市）
新湊南部中（1965年、42歳）、**奈古中**（1975年、52歳）
- ・射水市（旧射水郡小杉町）
小杉南中（1984年、61歳）
〔小杉小（1973年、50歳）〕
- ・南砺市（旧東砺波郡利賀村）
〔利賀小（1996年、73歳）〕

イ. 時代別

1960（昭和35）年	37歳	富山市・西部中
1965（昭和40）年	42歳	旧新湊市・現射水市・新湊南部中
1973（昭和48）年	50歳	〔旧射水郡小杉町・現射水市・小杉小〕
1975（昭和50）年	52歳	旧新湊市・現射水市・奈古中
1979（昭和54）年	56歳	中新川郡舟橋村・舟橋中
1980（昭和55）年	57歳	〔滑川市・南部小〕
1984（昭和59）年	61歳	旧射水郡小杉町・現射水市・小杉南中
1987（昭和62）年	64歳	〔中新川郡上市町・白萩南部小《休校》〕
1996（平成8）年	73歳	〔旧東砺波郡利賀村・現南砺市・利賀小〕
2002（平成14）年	79歳	〔富山市・光陽小〕
2008（平成20）年	85歳	〔富山市・中央小〕
2010（平成22）年	87歳	〔富山市・新庄北小〕

地域別では、東部は滑川市まで、西部は旧射水郡小杉町・現南砺市までである。時代別では、37歳から61歳まで、1960（昭和35）年から1984（昭和59）年までの間に作曲されている。

⑥團伊玖磨

團伊玖磨は、1924（大正13）年4月7日に東京の四谷で生まれた戦後を代表する作曲家である。全国の校歌を数多く作曲したことで知られる。2001（平成13）年5月17日、中国蘇州

市の病院で77歳で死去した。

『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』（2014年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第5巻）に掲載した團伊玖磨の校歌年表（制定年順）を地域別・時代別に分類し直して再録する。

ア. 地域別

- ・魚津市
〔魚津高（1952年、28歳）〕
- ・滑川市
〔北加積小（1952年、28歳）〕
- ・中新川郡立山町
旧立山中（1953年、29歳）
〔釜ヶ淵小（1952年、28歳）〕
- ・富山市
〔五福小（1955年、31歳）、富山女子高《現富山いずみ高》（1957年、33歳）、富山商業高（1958年、34歳）、富山大附属小（1959年、35歳）、奥田小（1960年、36歳）、富山南高（1976年、52歳）〕
- ・富山市（旧婦負郡八尾町）
野積中《八尾中に統合》（1957年、33歳）
- ・富山市（旧上新川郡大沢野町）
大沢野中（1951年、27歳）
〔大沢野工業高《富山工業高に統合》（1961年、37歳）、大沢野小（1966年、42歳）〕
- ・射水市（旧射水郡大門町）
〔旧大門小（1966年、42歳）〕
- ・高岡市
伏木中（1967年、43歳）
〔高岡高（1952年、28歳）〕

イ. 時代別

- | | | |
|-------------|-----|--|
| 1947（昭和22）年 | 23歳 | 〔『花の街』〕 |
| 1949（昭和24）年 | 25歳 | 〔『「夕鶴」付帯音楽』〕 |
| 1950（昭和25）年 | 26歳 | 〔『おつかいありさん』〕 |
| 1951（昭和26）年 | 27歳 | 旧上新川郡大沢野町・現富山市・ 大沢野中
〔『やぎさんゆうびん』〕 |
| 1952（昭和27）年 | 28歳 | 〔滑川市・北加積小、中新川郡立山町・釜ヶ淵小、魚津市・魚津高、高岡市・高岡高〕
〔『歌劇「夕鶴」』、『ぞうさん』〕 |
| 1953（昭和28）年 | 29歳 | 中新川郡立山町・旧 立山中 |
| 1955（昭和30）年 | 31歳 | 〔富山市・五福小〕 |
| 1957（昭和32）年 | 33歳 | 旧婦負郡八尾町・現富山市・ 野積中 《八尾中に統合》 |

- [富山市・富山女子高《現富山いずみ高》]
 1958 (昭和 33) 年 34 歳 [富山市・富山商業高]
 1959 (昭和 34) 年 35 歳 [富山市・富山大附属小]
 [『祝典行進曲』]
 1960 (昭和 35) 年 36 歳 [富山市・奥田小]
 1961 (昭和 36) 年 37 歳 [旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野工業高《富山工業高に統合》]
 1966 (昭和 41) 年 42 歳 [旧上新川郡大沢野町・現富山市・大沢野小、旧射水郡大門町・現射水市・旧大門小]
 1967 (昭和 42) 年 43 歳 高岡市・伏木中
 1976 (昭和 51) 年 52 歳 [富山市・富山南高]

地域別では、中新川郡立山町 1 校、旧婦負郡八尾町・現富山市 1 校、旧上新川郡大沢野町・現富山市 1 校、高岡市 1 校となっており、時代別では 1951 (昭和 26 年) から 1967 (昭和 42) 年にかけての比較的若い時期 (27 歳、29 歳、33 歳、43 歳) に作曲されている。

⑦橋本秀次

橋本秀次は、明治 38 (1905) 年に下新川郡入善町新屋に生まれ、東京音楽学校声楽科卒業後は東京音楽学校助教授を経て教育出版社や教育芸術社に勤務。昭和 37 (1962) 年 4 月より金沢大学教育学部の音楽科教授を務めた。金沢大学の音楽科教授の第 1 号だったが、翌年の昭和 38 (1963) 年 3 月 28 日に心臓発作で死去した。橋本秀次が作曲した中学校校歌は 2 校であるが、小学校の校歌を多く作曲している。『富山県の小学校校歌をつくった人たち～作詞者及び作曲者の観点から～』(2014 年、富山国際大学子ども育成学部研究紀要第 5 巻) で触れなかったため、補遺として記す。

ア. 地域別

・下新川郡入善町

[新屋小《黒東小に統合》(1930 年、25 歳)、古黒部尋常小《→横山小→桃李小に統合》(1934 年、29 歳)、入善高 (1951 年、46 歳)]

・黒部市

白鷹 (西部) 中《鷹施中に統合》(1950 年、45 歳)、布施中《鷹施中に統合》(不詳)

[石田小 (1928 年、23 歳)、前沢小 (1953 年、48 歳)]

・魚津市

[村木小 (1935 年、30 歳)]

・射水市 (旧新湊市)

[作道小 (1959 年、54 歳)]

・高岡市

[下関小 (1960 年、55 歳)]

・小矢部市

[東蟹谷小《蟹谷小に統合》(1949 年、44 歳)、旧石動小 (1953 年、48 歳)、荒川小《大谷小に統合》(不詳)]

イ. 時代別

1928 (昭和 3)	年	23 歳	[黒部市・石田小]
1930 (昭和 5)	年	25 歳	[下新川郡入善町・新屋小《黒東小に統合》]
1934 (昭和 9)	年	29 歳	[下新川郡入善町・古黒部尋常小《→横山小→桃李小に統合》]
1935 (昭和 10)	年	30 歳	[魚津市・村木小]
1949 (昭和 24)	年	44 歳	[小矢部市・東蟹谷小《蟹谷小に統合》]
1950 (昭和 25)	年	45 歳	黒部市・白鷹(西部)中《鷹施中に統合》
1951 (昭和 26)	年	46 歳	[入善高]
1953 (昭和 28)	年	48 歳	[黒部市・前沢小、小矢部市・旧石動小]
1959 (昭和 34)	年	54 歳	[旧新湊市・現射水市・作道小]
1960 (昭和 35)	年	55 歳	[高岡市・下関小]
1962 (昭和 37)	年	57 歳	(金沢大学教育学部教授)
		不詳	黒部市・布施中《鷹施中に統合》
			[小矢部市・荒川小《大谷小に統合》]

地域別では、出身地の入善町の周辺部である新川地区の小中学校が多いが、小矢部市との繋がりも見えて興味深い。

IV 終わりに

富山県の中学校校歌の作詞者及び作曲者についてまとめると次のようになる。

教育関係者による作詞が多い地域は、下新川郡朝日町、同入善町、中新川郡上市町、旧新湊市・現射水市、高岡市、氷見市、小矢部市である。

特定の人物による作詞が多い地域は、富山市及びその周辺部（旧上新川郡大沢野町、旧婦負郡婦中町、同山田村、同八尾町）で、大島文雄によるものが多い。

時代別に作詞者を見ると、新制中学校が発足した昭和 22 (1947) 年から昭和 25 (1950) 年までは教育関係者が多い。

主な作詞者では、小学校での作詞が多かった和田徳一と中山輝によるものが少ないのに対し、小学校でも多かった大島文雄によるものが大変多い。また、下新川郡入善町出身の廣川親義によるものが下新川郡朝日町、同入善町に多い。

地元またはその周辺出身者による作曲が多い地域は、下新川郡朝日町、同入善町、黒部市、魚津市、滑川市、高岡市、氷見市である。

また、作曲者による棲み分けがあるようである。すなわち、下新川郡朝日町、同入善町、黒部市、魚津市が小澤慎一郎と小澤達三（兄弟）、旧富山市及びその周辺部が福井直秋、高岡市が室崎琴月である。

教員経験者による作曲は、小学校の場合ほど多くないが、それでもかなりの数になる。とりわけ、昭和 24 (1949) 年と昭和 26 (1951) 年が多い。

特定の人物による作曲では、小学校の場合と同様黒坂富治によるものが多く、県内各地で見られる。

このように見てくると、富山県の中学校校歌の作詞者及び作曲者は、教育関係者によるもの、

特定の人物によるものに大別されることがわかる。

富山県の小中学校の校歌の歴史を概観すると、戦前は、校歌がなかった時代から、学校在職者によって校歌が作られる時代を経て、師範学校教員による時代へと校歌作成の意識が変わっていった時代であるといえる。戦後は、教育関係者によるものが各時代に一定数見られるものの、特定の人物、とりわけ大学の教員によるものが多くなっていく。そして、中央の専門家による作詞作曲も見られるようになる。すなわち、校歌は在職教員が作るものだという認識から、徐々に専門性を備えた人物が作るものだという意識が変わっていき、現在では中央の専門家に依頼する意識も出てきたということである。

中学校の場合、戦後の新制中学校以降に制定されたものがほとんどであるので、特定の人物によるものが多くなっている。なかでも、作詞の大島文雄、作曲の黒坂富治、小澤慎一郎、福井直秋（全員大学の教員）は、県下の中学校校歌作成に大変な貢献をしたといえるだろう。

図書館や公文書館などの機関には、これらの校歌のピアノ伴奏つきの楽譜の収集・所蔵をぜひお願いしたい。大切な文化遺産である校歌は、永遠に残されるべきものだからである。

〈参考文献〉

- ・小澤達三『富山県校歌全集』、(1979年、パラマウント社)
- ・富山県ひとづくり財団・富山県教育記念館編『校名・校章・校歌と教育への期待』(2010年、未出版)
- ・大島文雄先生追想録刊行会編『大島文雄先生追想録』(1992年、岩波ブックサービスセンター)
- ・小澤慎一郎先生を偲ぶ会『小澤慎一郎先生を偲ぶ演奏会プログラム』(1991年6月16日、富山市民プラザ アンサンブルホール)
- ・福井直秋伝記刊行会『福井直秋伝』(1969年)
- ・立山町教育センター・立山区域小学校教育協議会『立山区域小・中学校 校歌集』(2013年)
- ・氷見市教育委員会『氷見のうた』(1995年、氷見市教育委員会)
- ・早月川風土記の会『早月川風土記』(2008年、早月川風土記の会)
- ・上市町誌編纂委員会『上市町誌』(1970年)
- ・上市中学校『上市中学校創立二十周年記念 二十の年輪』(1967年)
- ・三成中学校同窓会編『富山市立三成中学校創校三十年記念誌』(1977年、三成中学校三十年記念事業推進委員会)
- ・富山県教育記念館『富山県中学校教育 50年～富山県教育記念館研究紀要』(1998年、富山県教育記念館)
- ・砺波市教育委員会・砺波市中学校長会『砺波市中学校教育 50年譜』(1998年)
- ・八尾中学校創立 50周年記念事業実行委員会『八尾中学校五十年の歩み』(1997年)
- ・閉校記念実行委員会・大久保中学校『36年の歩み』(1983年)
- ・大久保中学校『学校要覧 昭和 26年』(1951年)
- ・富山市立呉羽中学校創立 50周年記念事業実行委員会『富山市立呉羽中学校 50年史 光みつ

る藤が丘』(1997年)

- ・チューリップテレビ『越中人譚 校歌』(2003年)
- ・広田宙外『音楽遍歴とつれづれの記』(1993年)
- ・黒坂富治『沖縄の百日』(1967年、清明堂書店)

〈資料〉富山県内中学校校歌作詞者・作曲家一覧（小澤達三『富山県校歌全集』のデータを元に、堀江が加筆・修正して作成）

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲家	出身地	経歴
1	下.朝日町	朝日	1982		1982	廣川 親義	入善町野中	歌人・朝日町教育委員長	川崎 祥悦	青森県	合唱曲作曲家・「山のいぶき」
2	同		1947	泊 1982	1950	廣川 親義	入善町野中	歌人・朝日町教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
3	同		1948	↑境 1960		酒井 善一	入善町野中	歌人・高等学校長歴任	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
4	同		1947	小川 1982	1957	勝 承夫	東京都	歌人・報知新聞学芸部長	井上 武士	群馬県	日本教育音楽協会理事
5	下.入善町	入善	1947		1949	松原 耕一	入善町新屋	東京都小学校教諭・在職時作詞	窪野 康則	入善町	県教委指導主事・在職時作曲
6	同		1947	舟見 2010	1953	秋山 嘉久	新.青海町	中・高等学校校長歴任・初代校長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
7	同	入善西	1975		1975	田原長五郎	入善町	県指導課長・中学校校長歴任	森川 隆之	砺波市	和歌山大教授・大澤欽治と親戚
8	同		1947	黒東	1948	柚木 武夫	滑川市	高等学校校長歴任・富山女短大教授	米田 天海	入善町新屋	岐阜大教授
9	同		1947	上青(第二)	1951	廣川 親義	入善町野中	歌人・朝日町教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
10	同		1949	飯野	1948	広野 清秀	入善町青木	入善町教育長・校長在職時作詞	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
11	黒部市	鷹施	1967		1969	田中 冬二	福島市	叙情詩人・父が黒部市生地出身	石田 一郎	秋田県	作曲家
12	同		1947	布施	不詳	雪山 俊之	宇奈月町浦山	立命館大・富山女子短大教授	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
13	同		1947	白鷹(西部)	1950	柚木 武夫	滑川市	高等学校校長歴任・富山女短大教授	橋本 秀次	入善町新屋	金沢大教授
14	同	高志野	1958	(北部)	1958	西條 八十	東京都	詩人・夫人は黒部市若栗出身	佐々木すぐる	兵庫県	童謡作曲家・「月の沙漠」
15	同	桜井	1959		1960	藪田 義雄	神.小田原	白秋門下の詩人	松本民之助	京都市	作曲家・松本清富大教授は子
16	同		1947	桜井中部	1950	中部中選歌			黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
17	同		1947	桜井東部	不詳	吉沢 弘	黒部市植木	歌人・吉沢庄作(中校長歴任)の子	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
18	黒.旧宇奈月町	宇奈月	1975	黒部(1947)	1951	雪山 俊之	宇奈月町浦山	立命館大・富山女子短大教授	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県音楽界に貢献
19	魚津市	西部	1948		1951	前田 普羅	東.芝区	俳人・報知新聞富山支局長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
20	同		1947	魚津	なし?						
21	同		1947	角川	なし?						

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
22	魚津市		1947	加積(一部)		前田由太郎		初代校長・在職時作詞	小澤 達三	朝日町泊	小学校校長歴任・小澤慎一郎は弟
23	同	東部	1948		1947						
24	同		1947	加積(一部)							
25	同		1947	海望							
26	滑川市	滑川	1947		1949	浦田 三郎	魚津市	俳人・中学校長歴任・中教研会長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
27	同		1947	中加積1958							
28	同	早月	1949		1949	藤村 作	福・柳川	東大教授・武蔵野学園理事	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
29	同		1947	北野 1949	なし?						
30	同		1947	東北 1949	なし?						
31	中・上市町	上市	1971		1971	高島 順吾	魚津市	高校教諭・北日本新聞詩壇選者	福井 直俊	富山市五福	東京芸大・武蔵野音大教授・直秋長男
32	同		1947	旧上市 71	1949	野沢 潤	富・水橋	中学校長歴任・3代目校長時作詞	古崎 文雄	舟橋村	中学校教諭歴任
33	同		1947	白萩 1940	1947	松岡 重吉		中学校長歴任・旧上市中制定時職員	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
34	同		1947	不動 1970	1953	山本 淳歌	中・東加積村	県教育委員長・東加積村村長	小澤 達三	朝日町泊	小学校校長歴任・小澤慎一郎は弟
35	中・立山町	雄山	2004		1960	木俣 修	滋・彦根市	歌人・国文学者・実践女子大教授	平井康三郎	高知県	作曲家・「とんぼのめがね」
36	同		1947	旧雄山							
37	同		1947	↑立山74	1953	大島 文雄	富・覚中町	富大名譽教授・富山市教育委員長	團 伊玖磨	東京都	作曲家・「ぞうさん」「夕鶴」
38	同		1947	↑上滝74	1953	木俣 修	滋・彦根市	歌人・国文学者・実践女子大教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
39	同		1947	上東 2004	1947	松永 文男	立山町	小中学校校長歴任・在職時作詞	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
40	中・舟橋村	舟橋	1950	白岩 1947	1979	中村千栄子	新・柏崎市	詩人・作詞家・「少女のいる画集」	岩河 三郎	富山市	作曲家・「木琴」「巣立ちの歌」
41	同		1948	舟橋小・中	1937	山林 清作	立山町	舟橋小学校・校長在職時作詞	佐伯 正一	立・五百石	三重大・名古屋大・名古屋芸大教授
42	富山市	芝園	1947	芝園小同曲	1951	大木 惇夫	広島市	本名軍一・詩人・「大地讃頌」	山田 耕笹	東京都	作曲家・「この道」「赤とんぼ」
43	同	堀川	1947		1947	南日 實	富山市	初代校長・校長在職時作詞	荒井三千男		小学校校長歴任・教諭在職時作曲

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
44	富山市	東部	1947		1949	高田 瑞穂	静岡県	近代文学研究者・成城大教授	片山 顕太郎	大阪府	作曲家・和歌山大・大阪音大教授
45	同	西部	1947		1960	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	岩河 三郎	富山市	作曲家・「木琴」「菓立ちの歌」
46	同	南部	1947		1977	高瀬 重雄	立山町寺田	富山大名誉教授	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
47	同			(南中の歌)	1947	湯口池鶴子	富山市	当時の生徒・公募当選作品	田尻 澄子		当時の音楽科教諭
48	同	北部	1947		1948	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県音楽界に貢献
49	同	新庄	1947		1951	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	園山 民平	島, 出雲市	作曲家・満州唱歌集編纂・満州国歌
50	同	岩瀬	1947		1949	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	信時 深	大阪府	作曲家・歌曲集「沙羅」
51	同	山室	1947		1951	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究の大家	小林 和孝		中学校長歴任・教諭在職時作曲
52	同	奥田	1947		1951	塚田 長夫		教頭在職時作詞	長能 康男		校長(10代)在職時作曲
53	同	大泉	1953		1954	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	小山 郁之進		新潟大教授・新潟県内校歌多数
54	同	和合	1947		1950	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
55	同		1892	八幡 1951							
56	同	月岡	1947		1955	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
57	同	呉羽	1947		1950	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
58	同		1949	射水東部62	不詳	不詳			不詳		
59	同	水橋	1947		1949	池館 速雲	富, 三郷	住職・初代校長・水橋町教育長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
60	同	三成	1960	(改称)	1949						
61	同		1947	白岩(改称)	1949	藤城 邦子		当時の国語科教諭・新姓野崎	黒田 政信	立山町	小学校長・教諭在職時に作曲
62	同		1947	上条	1949						
63	同	興南	1983		1983	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	大澤 欽治	庄川町雄神	富山大名誉教授・富山音楽院長
64	同		1947	大久保 83	1949	長永 文明		大沢野町教育委員長・教諭在職時	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
65	同	藤ノ木	1988	新庄より分離	1988	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	大澤 欽治	庄川町雄神	富山大名誉教授・富山音楽院長

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
66	富山市・旧大沢野	大沢野	1947		1951	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	團 伊玖磨	東京都	作曲家・「ぞうさん」「夕鶴」
67	同		1947	旧大沢野					黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
68	同		1947	大久保 83	1949	長永 文明		大沢野町教育委員長・教諭在職時	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
69	富山市・旧大山町	上滝	1974		1953	木俣 修	滋, 彦根市	歌人・国文学者・実践女子大教授	團 伊玖磨	東京都	作曲家・「ぞうさん」「夕鶴」
70	同		1947	旧上滝							
71	同		1947	↑立山(改)	1953	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽院設立・「夕日」
72	同		1947	↑小見	なし				荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県音楽界に貢献
73	富山市・旧婦中町	速星	1947		1951	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	佐藤 陸積		当時の教諭
74	同	城山	2004		1951	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	松本民之助	京都市	作曲家・松本清富大教授は子
75	同		1947	旧城山	1950	佐藤 陸積		当時の教諭	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
76	同		1950	↑音川 04	1967	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
77	富山市・旧山田村	山田	1947		1951	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
78	富山市・旧八尾町	八尾	1970		1950	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長			
79	同		1948	旧八尾					團 伊玖磨	東京都	作曲家・「ぞうさん」「夕鶴」
80	同		1947	↑八尾東部	なし?						
81	同		1947	↑八尾西部	なし?						
82	同		1957	野積(改称)	1957	大島 文雄	富, 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長			
83	同		1947	↑婦南							
84	同		1949	仁歩 1970		中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
85	同		1947	大長谷 74		林 義操		小学校教諭歴任(小学校と同曲)	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県音楽界に貢献
86	同	杉原	1947		1949	木村 彦蔵	八尾町	小中学校長・2代目校長在職時	木村 彦蔵	八尾町	小中学校長・2代目校長在職時
87	富山市・旧細入村	楡原	1947		不詳	高崎 正秀	富山市	国文学者・國學院大教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
88	富山市・旧細入村		1947	猪谷 1967	1956	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
89	射水市・旧新湊市	新湊	2013		2013	校歌作成委			澤武 紀行	新湊市	声楽家
90	同		1947	新湊西部	1950	卯尾田みどり	新湊市	新湊西部中学校長・保育専門学院院长	福井 政治	新湊市	戦後新湊中部中学校長で退職
91	同		1975	奈古	1975	内藤 友明	新湊市	歌人・新湊市長・衆議院議員	岩河 三郎	富山市	作曲家・「木琴」「菓立ちの歌」
92	同		1947	↑新湊東部	1951	同校PTA			古閑 裕而	福島市	作曲家・「あゝ栄冠は君に輝く」
93	同		1947	↑新湊中部	1949	伝田 税		新湊中部中 3 代目校長	福井 政治	新湊市	戦後新湊中部中学校長で退職
94	同	新湊南部	1953	(1953 改称)	1965	木倉 豊信	砺波市	小中学校校長歴任・越中史壇会	岩河 三郎	富山市	作曲家・「木琴」「菓立ちの歌」
95	同		1947	作道							
96	同	射北	1953	(改称)	1950	大島 文雄	富、覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
97	同		1949	射北(改称)							
98	同		1947	↑ 堀岡							
99	同		1947	↑射東							
100	射水市・旧小杉町	小杉	1947		1952	大島 文雄	富、覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富大名誉教授
101	同	小杉南	1984		1984	須山ユキエ	福、田川市	作家・北日本新聞文学賞	岩河 三郎	富山市	作曲家・「木琴」「菓立ちの歌」
102	射水市・旧大門町	大門	1971		1972	大島 文雄	富、覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
103	同		1947	旧大門 71	1950	岡本 甚三	大門町	小中学校校長歴任・大門町教育長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
104	同		1947	↑南郷 72	不詳	白鳥 省吾	富、栗原市	詩人・全国の校歌を多数作詞	水原 英明		戦前の流行歌作曲家
105	同		1947	↑楠田 50							
106	高岡市	高陵	1951	(改称)	1951	大島 文雄	富、覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽院設立・「夕日」
107	同		1947	高岡東部	なし						
108	同	高岡西部	1947		1949	西部中職員			室崎 琴月	高岡市	作曲家・中央音楽院設立・「夕日」
109	同	南星	1957	(改称)	1959	廣川 親義	入善町野中	歌人・朝日町教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家・「夕日」・かつての勤務校

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
110	高岡市		1947	高岡南部							
111	同	志貴野	1957	(改称)	1951	宮崎 健三	高岡市	小中教諭・和光大教授・在職時	井上 武士	群馬県	日本教育音楽協合理事長
112	同		1947	高岡北部							
113	同	芳野	1947		1947	島村 英男	高岡市	東京で教員生活後芳野中勤務	宮下 舜爾	樺太	作曲家・初代音楽科教諭・在職時
114	同	伏木	1947		1967	堀田 善衛	高岡市伏木	芥川賞作家・評論家	團 伊玖磨	東京都	作曲家・「ぞうさん」「夕鶴」
115	同	国吉	1949	(改称)	1950	中山 安美	福岡町	小学校教諭・在職時作詞	室崎 琴月	高岡市	作曲家・「夕日」・中央音楽院設立
116	同		1947	北砺	なし?						
117	同	五位	1948	(改称)	1951	前野良太郎	高岡市	旧石堤村長・歌集「村長日々」	倉谷庄太郎	小矢部市石動	小学校校長歴任・在職時作曲
118	同		1947	祖父	なし?						
119	同	戸出	1947		1950	田中 未広	長・平戸	玉川学園大教授	岡本 敏明	宮崎県	玉川大教授・「泥鰌つッ餅つッ」
120	同	中田	1947		1950	大島 文雄	富・覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家・「夕日」・中央音楽院設立
121	同	牧野	1970	(独立開校)	1970	大島 文雄	富・覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	宮下 舜爾	樺太	作曲家・北日本放送社長室長
122	同		1947	芳野中分校	1947	島村 英男	高岡市	東京で教員生活後芳野中勤務	宮下 舜爾	樺太	作曲家・初代音楽科教諭・在職時
123	高岡市・旧福岡町	福岡	1947		1955	山田 信一	小矢部市石動	中学校長歴任・教諭在職時作詞	山本 志家		小中学校教諭・在職時作曲
124	同		1947	西五位 48							
125	水見市	南部	1947		1952	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
126	同		1947	十二町 65							
127	同	北部	2000		1975	和田 徳一	徳島県	富山大教授・万葉研究の大家	宮下 舜爾	樺太	作曲家・北日本放送社長室長
128	同		1947	旧北部	1957	高峯 正岡	水見市	住職・水見高校長(多胡羊楯補作)	上野 純子		中学校教諭歴任
129	同		1947	↑上庄 74	不詳	不詳			不詳		
130	同		1947	↑阿尾 74	1967	高瀬 重雄	立山町寺田	富山大名誉教授	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
131	同		1947	↑余川谷 74	1955	釜田 弘文	氷・上余川	中学校校長歴任	三木 乗俊	水見市	高等学校教諭歴任

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
132	水見市		1947	八代	1952	多胡 羊齒	水、胡桃	白秋門下の童謡詩人	三木 乗俊	水見市	高等学校教諭歴任
133	同	西部	1954	(改称)	1963	清水 信行	水見市	水見市内小学校長歴任	池永 哲朗	水見市	中学校教諭歴任
134	同		1947	上庄谷							
135	同	十三	1947		1952	十三中学校			室崎 琴月	高岡市	作曲家・「夕日」・中央音楽院設立
136	同	灘浦	1947		1951	畑中 正也	水、宇波町	小中学校長歴任・校長在職時作詞	越田 毅	水見市	水見市内小学校長歴任
137	同	西條	1947		1948	三箇 恭子	水見市	当時の生徒・愛唱歌当選作品	森 和子		在職時作曲
138	小矢部市	石動	1949		1950	水牧 良三	小矢部市	小矢部市・砺波市中学校長歴任	大家 規一		小矢部市・砺波市中学校長歴任
139	同		1947	石動第一-49							
140	同		1947	石動第二-49							
141	同	大谷	1971	岩尾滝84	1971	福島外喜雄	小、中央町	教育事務所長・小矢部市教育長	大家 規一		小矢部市・砺波市中学校長歴任
142	同		1984		1984	松本 正雄	小、東蟹谷村	小矢部市長	南 弘明	山口県	東京芸大名誉教授・「月下の一群」
143	同		1947	若林1984	1957	津山 玄道	西、若林村	住職・旧制中学校長・県教委員長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
144	同		1949	石動一部84	1950	水牧 良三	小矢部市	小矢部市・砺波市中学校長歴任	大家 規一		小矢部市・砺波市中学校長歴任
145	同	津沢	1947		1951	前田 普羅	東、芝区	俳人・報知新聞富山支局長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
146	同	蟹谷	1947		1951	名越 栄雄		東蟹谷村長・砺中町助役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
147	砺波市	出町	1947		1949	吉田甲子太郎	東京都	児童文学者・翻訳家・明治大教授	室崎 琴月	高岡市	作曲家・「夕日」・中央音楽院設立
148	同		1955	砺波北部71		小又 幸井	富山市太田	歌人・富山市助役	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事長
149	同	庄西	1947		1949	古関 吉雄	福島市	作詞家・明治大教授	福井 直秋	上市町江上	武蔵野音大設立・初代学長
150	同	般若	1947		1950	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	大澤 欽治	庄川町雄神	富山大名誉教授・富山音楽院長
151	砺、旧庄川町	庄川	1947		1950	大島 文雄	富、覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	室崎 琴月	高岡市	作曲家・「夕日」・中央音楽院設立
152	南砺市・旧城端町	城端	1947		1950	大島 文雄	富、覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	信時 潔	大阪府	作曲家・歌曲集「沙羅」
153	南砺市・旧平村	平	2009		2009	山下 謙治	上平村	富山市小学校長歴任・上平中出身	佐藤 進	城端町	作曲家・富山市中学校長・上平中出身

No.	市町村名	現学校名	開校	旧学校名	制定	作詞者	出身地	経歴	作曲者	出身地	経歴
154	南砺市・旧平村		1947	旧平 2009	不詳	大木 惇夫	広島市	本名軍一・詩人・「大地讃頌」	乗松 昭博	東京都	作曲家
155	南砺市・旧上平村		1947	上平 2009	1951	中山 輝	立山町福田	詩人・北日本新聞社代表取締役	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
156	同		1947	↑皆穂分校	不詳	久保 勝彦			酒井 与四	上平村	県教委・五箇山民謡保存会
157	南砺市・旧利賀村	利賀	1947		不詳	河合 正則	福野町	旧制砺波中学・砺波高女教諭	荒木 得三	城端町	富山師範教諭・県音楽界に貢献
158	南砺市・旧井波町	井波	1947		1950	五味 保義	長. 下諏訪	日本女子大講師・「アヲマギ」再刊論者	下総 皖一	埼玉県	作曲家・「たなばたさま」「のぎく」
159	同			井波中流援歌	1967	高橋翔太郎			浜尾 和也		作曲家
160	南砺市・旧井口村	井口	1954	井波より分離	1950	大島 文雄	富. 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
161	南砺市・旧福野町	福野	1947		1951	前田 普羅	東. 芝区	俳人・報知新聞富山支局長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
162	南砺市・旧福次町	福光	1947		1949	吉波 彦作	福光町	旧制砺波中学校長	柴田 義正		小中学校教諭・県体育協会主事
163	同		1947	南蟹谷 70	不詳	不詳			不詳		
164	同		1962	中河内分校							
165	同		1947	太美 1961	1957	大島 文雄	富. 覚中町	富大名誉教授・富山市教育委員長	黒坂 富治	朝日町泊	富山大名誉教授
166	同		1947	白中分校 78		鶴野 正輔	福光町	福光南部小・吉江中教諭	小川 信一		
167	同		1477	刀利分校 78							
168	同	吉江	1947		1955	山本 宗間	中. 東加積村	県教育委員長・東加積村村長	小澤慎一郎	朝日町泊	富大名誉教授・県合唱連盟理事
169	富山市	富山大附属	1947		1948	大石 修平	氷見市	富山師範学校教員・東京都立大	石柘真礼生	和歌山県	作曲家・東京芸大教授・78 年混四
170	同	片山学園	2005		2005	廣瀬 久雄	東京都	高等学校校長歴任・開校時学園長	佐藤 進	城端町	作曲家・富山市内中学校校長歴任